

**令和元年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書**



令和2年8月

庄原市教育委員会

はじめに

本市では、「美しく輝く里山共生都市～みんなが“好き”と実感できる“しょうばら”～」を将来像として掲げ、まちづくりを進めています。

教育委員会では、教育の理念を「ふるさとの学びを原動力として高い志を持ち続け活躍できる人材の育成」としています。子供も大人もふるさとの学びや体験を通して、「主体的に学び、グローバル社会をたくましく生き抜く人材」「庄原市の将来を担うとともに国際舞台においても活躍できる人材」「社会に貢献し新しい時代を築いていく人材」の育成を目指し、活気と潤いのある「学びと誇りが実感できるまちづくり」に取り組んでいます。

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、毎年、前年度に実施した業務や事業について教育委員会自らが点検・評価を行い、その結果を報告書にまとめ、市議会に提出し公表しているものです。

なお、この点検及び評価にあたって、庄原市教育事務評価検討委員設置要綱に基づき、教育に関し学識経験等を有する方々を当委員会委員として、多角的な視点・観点からの貴重なご意見やご助言をいただいています。

今後とも、課題や取り組みの方向性を明らかにし、信頼される教育行政の推進を図るとともに、市民の皆様への説明責任を果たし、教育行政の一層の充実に努めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

庄原市教育委員会

目 次

I	教育行政施策の点検・評価の概要	
1.	目的	1
2.	点検・評価の対象及び実施について	1
3.	点検・評価の判断基準	2
II	「令和元年度教育行政施策の方針」に基づく点検及び評価の結果	
1.	学校教育	3
(1)	確かな学力の定着・向上	3
(2)	豊かな人間性の育成	8
(3)	健康・体力の保持・増進	12
(4)	今日的課題への対応	15
(5)	教職員の資質向上	19
(6)	学校教育環境の充実	22
2.	生涯学習	30
(1)	生涯学習・社会教育の充実	30
(2)	芸術・文化の推進	36
(3)	スポーツの推進	45
3.	家庭・地域の教育力	54
(1)	教育風土の醸成	54
(2)	家庭・地域と一緒に取り組む教育活動	56
III	教育委員会委員の活動状況	
1.	庄原市教育委員会委員	59
2.	教育委員会議の開催状況	59
3.	教育委員会議の議決案件及び主な報告・協議事項	60
4.	教育委員会議以外の活動状況	62
IV	教育事務評価検討委員の意見	
1.	庄原市教育事務評価検討委員	63
2.	点検及び評価の結果に関する意見	63

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）

第 26 条（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I 教育行政施策の点検・評価の概要

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果を議会に報告し、市民に公表することが義務づけられています。

この点検・評価は、本市教育行政の推進に資するとともに、市民に対する責任を果たすことを目的としています。

2 点検・評価の対象及び実施について

令和元年度の点検・評価については、「庄原市長期総合計画」に掲げる教育・文化に関する基本計画に基づいて、教育委員会が策定した「令和元年度教育行政施策の方針」により、重点施策として取り組んだ施策及び事務事業について、点検・評価を実施しました。

学校教育の分野では、「ふるさとを愛する心をもち、主体的に学び続ける児童生徒の育成」をテーマに、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学びの教育活動の推進、児童生徒の自尊感情や規範意識の高揚、健康で活力ある態度を養う教育の充実、学校・家庭・地域が一緒になった児童生徒の育成に向けて、「確かな学力の定着・向上」「豊かな人間性の育成」「健康・体力の保持・増進」「今日的課題への対応」「教職員の資質向上」「学校教育環境の充実」を柱とした 27 項目 79 施策を対象としています。

生涯学習の分野では、「豊かな心を持ち主体的に学び続ける人づくり・地域づくり」をテーマに、市民一人一人が生涯にわたり主体的に学び、その成果を社会参加に反映できるように、また、人と人、人と地域、地域と地域が確かな絆で結ばれた地域社会の実現ができるように、「生涯学習社会教育の充実」「芸術・文化の推進」「スポーツの推進」を柱として取り組んだ 8 項目 76 施策を対象としています。

さらに、家庭・地域の教育力の分野では、「学校・家庭・地域の連携」をテーマに、子供の育ちを支える地域や学校、関係者が子供としっかり向き合い、子供の心に寄り添いながら、一緒になって子供を育てるように、「教育風土の醸成」「家庭・地域と一緒に取り組む教育活動」を柱として取り組んだ 5 項目 12 施策を対象としています。

点検及び評価の充実を図るため、学校教育関係者、社会教育関係者、有識者等による庄原市教育事務評価検討委員を設置し、点検及び評価の内容について調査及び検討を行っていただくとともに、同委員と教育委員会委員が一堂に会し、点検・評価結果に関する意見交換会を開催し、本市教育行政に対する意見や助言等をいただいています。

3 点検・評価の判断基準

点検・評価にあたっては、「令和2年度教育行政施策の方針」に掲げた重点施策の体系に従い、項目ごとに【取り組み・実績】【成果・効果】【課題・対応】について整理するとともに、併せて【成果・効果】の中で、各具体的施策や事業について「有効性」「必要性」「方向性」の各観点から個別点検を行い、次の基準に従ってそれぞれの評価指標を提示しています。

区分	指標	判断基準
有効性	高い	施策や事業の目的・目標が十分に達成された
		前年度の実績を大幅に上回った
		同様の施策・事業を実施している県内他市町と比較すると、上位に位置している
	普通	施策や事業の目的・目標に対して、ある程度の成果はあった
		前年度の実績とほぼ同じ程度である
		同様の施策・事業を実施している県内他市町と比較すると、平均的・中位に位置している
	低い	施策や事業の目的・目標に対して、期待した程の成果や効果が出なかった
		前年度の実績を大幅に下回った
		同様の施策・事業を実施している県内他市町と比較すると、下位に位置している
必要性	高い	市民のニーズは増加傾向である
		法律等に基づく施策・事業または市が主体的に行うべき施策・事業である
		市教委が関与すべき程度（範囲・度合い）について、見直しの必要はない
	普通	市民のニーズはほぼ横ばいである
		市民に身近な施策・事業であり、市が行うのが適当な事業である
		市教委が関与すべき程度（範囲・度合い）について、見直しの必要はない
	低い	市民のニーズは減少傾向である
		国・県または民間が行うのが適当な事業である
		市教委が関与すべき程度（範囲・度合い）について、見直しの必要がある
方向性	拡大継続	事業効果が高いため、さらに事業を拡大または充実して継続すべきである
	継続	事業効果が認められるため、継続すべきである
	縮小・休止	事業を縮小または休止すべきである
	完了・終了	当該年度をもって、計画または予定どおり事業が完了（終了）した

Ⅱ 「令和元年度教育行政施策の方針」に基づく点検及び評価の結果

1 学校教育

(1) 確かな学力の定着・向上

① 主体的に学び考える教育の推進

【取り組み・実績】

○ 個に即した指導の充実と学習習慣の確立

- ・ 学習内容の確実な定着と自律的な家庭学習の充実

指導主事が各学校の校内研修及び市教育研究会の研修会に参加し、学習内容を定着させ児童生徒一人一人に力をつける授業づくりや、授業と家庭学習との関連を充実させるための指導講話を実施

広島県教育委員会の学力フォローアップ校事業対象校である東城小学校における校内研修に参加し、学力の定着に向けた授業づくりや個別指導体制等について指導助言

- ・ 自律的な学習を促進する複式・少人数指導の充実

第1回庄原市道徳教育推進委員会研修会兼複式・少人数指導研修会（6/19）実施

峰田小学校において、道徳科の複式「わたりの授業」の研究授業、研究協議及び講話により、複式・少人数指導の授業の在り方について研修（全小中学校対象）

○ 対話的な学び・深い学びの展開

- ・ 教科ごと固有の見方・考え方を明確にした授業改善の推進

指導主事が各学校の校内研修において、教科等の見方・考え方を働かせる授業について指導・助言

- ・ 教科等横断的な視点で関連性に着目した指導の充実

- ・ 課題発見・解決学習の単元開発及び実践・改善の推進

市主催研修において、カリキュラム・マネジメント及び単元開発や課題発見・解決学習を視点にした研修を実施

「第1回庄原市『学びの変革』推進協議会 兼 第2回庄原市初任者研修会（7/2）」

「第2回庄原市『学びの変革』推進協議会 兼 庄原市研究主任研修会（8/7）」

「第3回庄原市『学びの変革』推進協議会（2/28）」新型コロナウイルス感染症対策により中止

各校の単元開発や課題発見・解決学習の実施状況について、アンケート実施

○ 科学的思考力の育成を図る理科教育の充実

- ・ 仮説に基づく観察・実験の結果を分析し、考察する指導の充実

科学研究に係る研修会及び審査会等を実施

「児童生徒科学研究の進め方についての研修会（5/24）」

「児童生徒科学研究作品審査会（9/10）」

「児童生徒科学研究作品展（9/14・15）」

複式学級のある学校へ理科指導に係る非常勤講師を配置（実験、観察等の指導の充実）

【成果・効果】

- ◎ 全国学力・学習状況調査では、小学校、中学校共に全教科で県平均正答率を上回った。基礎的・基本的な学習内容は、おおむね定着している。
- ◎ 道徳科の授業の公開や研究協議から、複式学級のみならず、中学校や単式学級校の指導者に複式授業についての理解が深まった。
- ◎ 提案した授業づくり及び指導の工夫が、各校の主体的な学びに向けた取り組みの参考となった。
- ◎ 教科等の見方・考え方を意識した指導ができつつある。
- ◎ カリキュラム・マネジメントについての講話や実践交流を行い、研修を充実させた。
- ◎ 課題発見・解決学習について、取り組みが充実している学校を活用し、授業研究を通して各学校に意識付けを行うことができた。
- ◎ 県科学賞準特選に1作品が入賞した。中学校における取り組み数の増加とともに、科学研究作品の質の高まりが見られる。科学研究の指導に係る研修を通して、理科において課題発見・解決学習の過程を踏まえた授業改善を実施し、科学的思考力の育成を図っている。
- ◎ 理科指導非常勤講師の配置により複式学級を解消し、実験、観察の指導が充実している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学習内容の確実な定着と自律的な家庭学習の充実	普通	普通	継続
自律的な学習を促進する複式・少人数指導の充実	普通	普通	継続
教科ごと固有の見方・考え方を明確にした授業改善の推進	普通	高い	継続
教科等横断的な視点で関連性に着目した指導の充実	普通	高い	継続
課題発見・解決学習の単元開発及び実践・改善の推進	普通	高い	継続
仮説に基づく観察・実験の結果を分析し、考察する指導の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 全国学力・学習状況調査の結果から、教科によっては記述式問題の正答率が低いものがあり、課題がある。
- 家庭学習と授業とのつながりについての指導が十分でない。家庭学習を授業と関連させて学びを連続させることの必要性について、指導を充実させる必要がある。
- 複式学級における道徳科や外国語科について、「わたりの授業」の在り方の検討や授業の工夫改善を進めていく必要がある。
- 単元における教科等の見方・考え方についての具体が明確になっていない学校もある。今後、校内研修だけでなく、研修会の場も利用して、研修を深める必要がある。
- カリキュラム・マネジメントの改善及びそれに基づいた授業の実践を充実させる必要がある。
- 課題発見・解決学習の実施は全ての学校が概ね達成できているが、授業改善が十分でない学校がある。今後も、アンケート等で状況を把握し、適宜指導・助言を行う。
- 科学研究に取り組む児童生徒の割合には学校間で格差がある。
- 次年度も理科指導非常勤講師を配置し、複式学級を有する学校の理科指導の充実を図る。

② ことばの教育の推進

【取り組み・実績】

- 「ことばの力」の育成とコミュニケーション能力の向上
 - ・ 各教科等の授業における目的を明確にした言語活動の充実
各校において、書いて表現する活動、考えたことを話し合う活動などの言語活動を設定し、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善
教科の本質を踏まえ、付けたい力を明確にし、見通しをもたせた授業構成や言語活動の充実を図った授業改善、意味のあるペア・グループ活動を行うよう学校訪問において指導
 - ・ 日本文化の良さを実感できる「書く」活動の推進
国語科をはじめとし、古典に触れ合う機会の増加
名文を視写したり、自分で短歌や俳句を作成したりする機会の増加
児童生徒が作成した作品をコンクールや新聞の子供作品コーナーへ応募
 - ・ 身のまわりの生活や体験活動等を題材にした作文指導の充実
詩文集「さとやま」における第一部門（報告文・記録文）、第二部門（生活文・体験文）、第三部門（短歌・俳句・詩）への応募働きかけ
「鈴木三重吉賞」への積極的応募働きかけ

【成果・効果】

- ◎ パフォーマンス評価、単元のゴールを明確にした授業が各校において展開され、それらの解決に向けて、グループやペアによる協働的な学びが行われるなど、コミュニケーション能力の向上が図られている。
- ◎ 多くの学校において、児童生徒がコンクール等短歌や俳句、作文等の作成に取り組み、新聞の俳句コーナーやヤングスポットに応募している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
各教科等の授業における目的を明確にした言語活動の充実	普通	普通	継続
日本文化の良さを実感できる「書く」活動の推進	低い	普通	継続
身のまわりの生活や体験活動等を題材にした作文指導の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 教科において付けたい力を十分に身に付けさせる指導に至っていない。
- 教科の本質を明確にし、言語活動の充実を図った授業改善に、今後も継続して取り組む
- 今年度から、ひろしま教育の日に係るメッセージ、ことばの輝き優秀作品コンクールが休止され、児童生徒の表現の場が減った。
- 児童生徒の作品をお互い評価する機会は少ない。お互いのよさを評価しあうことで、作品の質的向上を図る必要がある。
- 児童生徒が書いた作文等に対して、どのように指導を行い、より良い作文にしていくか、児童生徒の生活などを通して感じたことをどのように作文につなげていくかなど、研修を行い、指導力の向上を図る。

③ 読書活動の推進

【取り組み・実績】

- 自主的な読書活動の充実
 - ・ 学校司書と連携した学校図書館活用の推進
 学校司書 10 名を配置し、学校図書館の環境整備、学校図書館を活用した授業づくりの推進
 学校司書打ち合わせ会で外部講師を招聘し、読み聞かせやブックトークの演習を実施
 庄原市学校図書館研修会（7/5）において、県内で先進的に実践している講師を招聘して
 学校図書館を活用した授業の実施
 学校司書打ち合わせ会において、次年度の小学校教科書に掲載されている関連図書についてまとめた。
 - ・ ビブリオバトル・ブックトーク等を通じた読書活動の普及・啓発
 ビブリオバトル、ブックトーク等を継続して実施
 詩文集「さとやま」における第四部門（読書感想文）への応募働きかけ

【成果・効果】

- ◎ 学校司書を 10 名配置することにより、学校図書館の環境整備を行うことができた。
- ◎ 読み聞かせやブックトークなどの読書活動の推進が図られた。
- ◎ 学校図書館を活用した授業づくりについて、学校司書と連携して取り組む学校が増えた。
- ◎ 庄原市教育フォーラムでの中学生によるビブリオバトルを契機に独自にビブリオバトルを実施している学校がある。（小学校 5 校、中学校 4 校）
- ◎ 小学校 6 校で読書ボランティアと連携し、読書祭りを実施している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学校司書と連携した学校図書館活用の推進	高い	高い	継続
ビブリオバトル・ブックトーク等を通じた読書活動の普及・啓発	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 図書担当教諭、学校司書のさらなるスキルを向上させるため、打ち合わせ会の内容、研修内容を精査する。
- 図書標準を満たしていない学校がある。（令和元年 10 月現在未達成校 小学校 8 校 中学校 2 校）また、調べ学習などの百科事典等が古いなどの課題も見られる。今後、書籍等の整備が急務である。
- ビブリオバトルやブックトーク等を各校の読書活動における計画に位置付け、継続した取り組みとなるよう再考する。

④ 外国語教育（活動）の推進

【取り組み・実績】

- 児童生徒の英語力向上に向けた指導の充実
 - ・ 小中連携による授業研究の推進

「第1回外国語教育研修会（6/18）」を庄原小学校において実施した。授業参観を通して小学校における外国語活動の進め方を共有し、校区に分かれて今年度の目標や取り組みについて協議した。

「第2回外国語教育研修会（9/12）」を庄原中学校において実施した。授業参観を通して中学校での目指すべき姿を共有し、今後の指導に向けて協議を行った。
 - ・ 外国語に対する学習意欲を高める取り組みの充実

庄原市英語検定料補助金について各中学校に周知した。
 - ・ 基礎の習得とコミュニケーション能力の向上

「中学生による英語スピーチ大会（6/9）」を実施し、7中学校から18名の参加があった。

「イングリッシュ・キャンプ（8/7）」を実施し、28名の外国語に興味をもった生徒が集まり、終日ALTとともに活動した。

【成果・効果】

- ◎ 小中学校のそれぞれの学習内容の違いや共通点を、小中学校の教員が合同で協議し、確認し合うことで、「中学校までに指導すること」と「小学校から引き継ぐこと」が明確となり互いの校種における外国語教育の充実につながっている。
- ◎ 英語検定料補助制度を130名の生徒が活用した。補助金申請者も増加傾向にあり、受検に対して興味関心を持った生徒が増えてきている。
- ◎ 英語スピーチ大会やイングリッシュ・キャンプは、中学生が、学校で身に付けた知識や技能を生かし、英語で自己表現する機会となっている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
小中連携による授業研究の推進	普通	普通	継続
外国語に対する学習意欲を高める取り組みの充実	普通	高い	継続
基礎の習得とコミュニケーション能力の向上	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 授業を参観する研修は年間3回の計画をしている。特に来年度から実施される小学校学習指導要領の内容について、全教職員が共通理解を図る必要がある。
- 市内中学校第3学年生徒の50%以上が3級以上を取得できるよう、制度の周知を行い、活用率を上げる。（第3学年における英語検定3級以上の取得率：29.8%）
- 生徒の更なる学習意欲の向上を目指す。現在実施の事業をゴールとせず、これらの事業を通して、将来的に外国語能力を身に付けた生徒が育成されるよう、今後工夫していく必要がある。

(2)豊かな人間性の育成

① 道徳教育の充実

【取り組み・実績】

- 「特別な教科 道徳」の充実
 - ・ 自己表現力と粘り強くやりぬく力を高める学習活動の推進
新学習指導要領の配慮事項である登場人物に自我関与させることや自己との関わりで考えることを着実に実践するよう指導
道徳科の学びや気づきを実生活に活かすことができるよう振り返りをしっかり書かせることを指導
 - ・ 「考え、議論する道徳」の着実な実践
庄原市道徳教育推進委員会研修会を年間3回実施
「第1回研修会（6/19）」
「特別の教科 道徳」実施にむけてのポイントや授業改善、評価等のポイントについて研修（県立教育センターサテライト研修講座の活用）
「第2回研修会（12/11）」
口和中学校の研究会と兼ねて、対話により考えを深める道徳科の授業づくりについて研修
「第3回研修会（2/5）」
人権教育研修会と兼ねて研修を実施
庄原市小学校教育研究会道徳部会において、県が作成したDVDを活用して研修
 - ・ 評価の在り方等に係る研修の計画的な実施
評価においては、庄原市道徳教育推進委員会研修会（第1回）にて、評価における基本的な考え方について研修を実施
道徳における校内研修の際には、評価の在り方について指導を実施
- 他者への思いやりや人間関係を築く力の育成
 - ・ 社会に貢献する責任感を育成する学習活動の推進
「道徳教育改善・充実」総合対策授業指定校（国指定）である口和中学校は、緻密な教材分析や発問の精選により、着実な実践及び還元を図る
各校において、体験活動と関連を図った道徳教育を推進
 - ・ 発達段階に応じた意見交流の場の設定等指導方法の工夫改善
児童生徒が自分の考えをしっかりと伝え、相手の考えを聞き、多面的・多角的な学びができるよう、中心発問を工夫するよう研修会や学校訪問の際に指導
- 郷土愛を育む道徳教育の充実
 - ・ 家庭・地域との連携を図り、郷土に誇りをもつ学習活動の充実
道徳参観日を設定し、家庭や地域を巻き込んだ道徳教育の実施を図る
地域のゲストティーチャーを招いて授業を積極的に実施
教科書の使用に伴い、地域教材を見直し、ブラッシュアップを行っている学校の実践

【成果・効果】

- ◎ 自己との関わりをこれまで以上に意識させた授業を行うことができています。
- ◎ 議論する道徳の実現をめざして、自分の考えを表現する学習活動の充実を図った授業づくりについて研修を行うことができた。
- ◎ 複式学級における「考え、議論する道徳」をテーマに研究会を実施した。
- ◎ 児童生徒の成長や学習状況を適切に見取ることができるよう発問やワークシートの工夫などを行っている。
- ◎ 自分の考えを書く活動、意見交流の場の設定ができています。
- ◎ 令和元年度「基礎・基本」定着状況調査質問紙調査(小学校第5学年・中学校第2学年)において、小学生では約95%、中学生では約97%の児童生徒が「学校や地域のルールを守っている」と回答しており、多くの児童生徒の規範意識が育っている。
- ◎ 令和元年度「基礎・基本」定着状況調査質問紙調査(小学校第5学年・中学校第2学年)において、小学生では約90%、中学生では約82%の児童生徒が「自分の住んでいる地域が好き」と答えており、自分の地域に誇りをもつことができています。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
自己表現力と粘り強くやりぬく力を高める学習活動の推進	普通	普通	継続
「考え議論する道徳」の着実な実践	普通	普通	継続
評価の在り方等に係る研修の計画的な実施	普通	普通	継続
社会に貢献する責任感を育成する学習活動の推進	普通	普通	継続
発達段階に応じた意見交流の場の設定等指導方法の工夫改善	普通	普通	継続
家庭・地域との連携を図り、郷土に誇りをもつ学習活動の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 長期的なスパンで児童生徒に粘り強く取り組ませること、成長をしっかりと見取り評価を行うことが必要である。
- 児童生徒が「考え、議論」できる道徳授業を行うために、引き続き授業づくりについて研修を深める。
- 「特別の教科 道徳」の実施に向けて、地域や保護者への分かりやすい説明を行う必要がある。
- 西城小学校、口和中学校の優れた実践をしっかりと普及させること、取り組みを継続させることが必要である。
- 体験活動と関連させた取り組みを今後も推進する。
- 道徳的価値を深めるために、ゲストティーチャーの活用について丁寧な連携を行う。

② 生徒指導の充実

【取り組み・実績】

- 自己指導能力の育成
 - ・ 生徒指導規程に基づく中学校区の一貫した指導体制の推進
定例校長会議において生徒指導体制の確立に係る指導・助言
生徒指導実践指定校（庄原中及び庄原小：月 1 回）学校訪問指導及び学校の要請を受けての訪問指導
学校生活安全相談員による児童生徒の問題行動に係る対応（随時・定期）
 - ・ スクールカウンセラー等の活用による教育相談体制の充実
今年度よりスクールカウンセラーが全校配置（小学校 19 校中 16 校、中学校全校へ配置）
- いじめ問題への取り組みに向けた組織体制の確立
 - ・ いじめの未然防止に向けた取り組みの推進
 - ・ 家庭や関係機関と連携した指導・支援の充実
「庄原市学校・警察連絡協議会」を年 2 回（第 1 回 6/26、第 2 回 12/9）実施
学校教育専門員、教育交流教室「つばさ」の指導員、訪問支援員による不登校及び不登校傾向の児童生徒に係る対応
スクールソーシャルワーカーによる児童生徒及び保護者への対応

【成果・効果】

- ◎ 定例校長会議や学校訪問指導を通して、各校の生徒指導規程に基づいた指導等について助言することにより、組織的な生徒指導体制の確立を図った。
- ◎ スクールカウンセラーによる各小中学校不登校及び不登校傾向の児童生徒及び教職員への指導・支援により、個に応じた指導や教育相談体制が改善されている。
- ◎ 問題行動が生じた際の対応の在り方について、関係機関及び各学校で共有することができた。
- ◎ いじめ及び不登校の未然防止策が重要であることを各校に周知し、積極的な生徒指導を推進していくよう促した。
- ◎ 学校生活安全相談員、学校教育専門員、スクールソーシャルワーカー等による不登校及び不登校傾向の児童生徒及び教職員への指導・支援により、個に応じた指導や教育相談体制が改善されている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
生徒指導規程に基づく中学校区の一貫した指導体制の推進	普通	高い	継続
スクールカウンセラー等の活用による教育相談体制の充実	高い	高い	継続
いじめの未然防止に向けた取り組みの推進	普通	高い	継続
家庭や関係機関と連携した指導・支援の充実	普通	高い	継続

【課題・対応】

- 暴力行為が発生した要因として、児童生徒が感情や行動のコントロールができていないことが挙げられる。引き続き、社会で許されないことは学校でも許されないといった毅然とした指導と特別支援教育の視点を踏まえた指導が必要である。
- いじめや不登校の未然防止の取り組みについて、研修を行う。
- 不登校の主な要因として、怠学傾向や対人関係の問題、家庭の教育力、学力の問題があり、保護者及び関係機関との連携により、継続的な学校復帰に向けた支援が必要である。
- スクールカウンセラーの全校への配置には至っていない。

③ 体験活動の充実

【取り組み・実績】

- 豊かな人間性や社会性の育成に向けた自然・生活体験活動の充実
 - ・ 発達段階に応じた体験活動の推進と事前・事後指導の充実
「山・海・島」体験活動において、小学校 19 校中 18 校が、3泊4日の宿泊体験学習を実施（1校は隔年実施）

【成果・効果】

- ◎ 国の補助金を受けることにより、保護者の負担軽減を図ることができた。
- ◎ 各校とも、ねらいを明確にした取り組みを行うとともに、事後指導においても日常生活と関連付けた取り組みを行っている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
発達段階に応じた体験活動の推進と事前・事後指導の充実	普通	普通	縮小・休止

【課題・対応】

- 天候等による安全面への配慮から、開催時期を検討する必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症対策により、2学期以降の実施を検討する。なお、日数の削減や内容の精査、宿泊場所の確保が難しい場合も、できるだけ体験活動を実施する。

④ 芸術教育の充実

【取り組み・実績】

- 感性を高め、豊かな情操を養う芸術・文化活動の推進
 - ・ 表現、創作、鑑賞する教育活動の推進
「本物の舞台芸術(9/13)」として小学生がミュージカルを鑑賞
「中学校合唱コンクール(11/12)」を実施
 - ・ 我が国や郷土の伝統的な文化に関する指導の充実
「古典の日(11/1)」の取り組み（伝統文化について学ぶ機会）
邦楽鑑賞会を実施

【成果・効果】

- ◎ 中学校合唱コンクールのアンケートでは、参加生徒からは 88.6%、市民からは 100%の肯定的な回答が得られた。
- ◎ 「古典の日」や日本の文化に触れる機会を全小中学校で設けている。
- ◎ 地域と連携し、箏や尺八などの楽器に親しむ機会を作っている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
表現、創作、鑑賞する教育活動の推進	普通	普通	継続
我が国や郷土の伝統的な文化に関する指導の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 中学校合唱コンクールでは、質の向上をめざし、次年度の第1回運営委員会で審査員からの助言内容を再度確認し、各校の取り組みに生かす。

(3)健康・体力の保持・増進

① 心身の健康保持増進

【取り組み・実績】

- 健康で活力のある生活習慣の確立
 - ・ 家庭と連携したアウトメディア及び携帯電話等に係る取り組みの充実
「第2回庄原市学校・警察連絡協議会（12/9）」を実施し、スマートフォン等の利用についての講話、スマートフォン等に係る現状と課題の協議・交流
アウトメディアの取り組みを全校で実施
 - ・ 喫煙・飲酒・薬物乱用防止及び歯予防等の取り組みの充実
「庄原市学校・警察連絡協議会」を年2回（第1回6/26、第2回12/9）実施
庄原市における少年非行の現状と課題について警察からの講話
薬物乱用防止等に関わり、学校が学校薬剤師、外部団体等と連携し、地域・児童生徒の実態に応じた指導
庄原市歯科衛生連絡協議会の事業内容として、全小中学校に歯みがき指導を年1回実施（原則として小学校第2・6学年）

【成果・効果】

- ◎ 各中学校区の実態に応じて、「アウトメディアの日」を設定することにより、継続した取り組みができた。
- ◎ 少年非行の現状について知る機会となり、小中高が連携した取り組みの充実につながっている。
- ◎ 歯科衛生連絡協議会において、学校歯科医、歯科衛生士、行政担当者等が取り組みや課題について協議する場があり、実態に応じた取り組みが進められている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
家庭と連携したアウトメディア及び携帯電話等に係る取り組みの充実	普通	高い	継続
喫煙・飲酒・薬物乱用防止及び歯予防等の取り組みの充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 携帯電話・スマートフォン等の利用に係る継続した啓発が必要である。
- 薬物乱用防止教室については、各学校が学校薬剤師や外部団体と連携して行っている。
- う歯のある児童生徒の割合が県平均を上回る等、歯の健康に係る課題があり、歯科衛生指導の充実に向けて、歯科衛生士等の専門的な助言を参考にした取り組みを継続する必要がある。

② 安全教育の充実

【取り組み・実績】

- 危機管理意識の醸成
 - ・ 危険を予測し回避する指導の充実
危機管理、安全教育の充実に向けて、時期に合わせた市教委独自の通知を送付

【成果・効果】

- ◎ 安全教育に係る通知は、定例校長会議でも再度周知し、安全教育の推進を図っている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
危険を予測し回避する指導の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 県からの通知だけでは、中山間地域の実情に合わない内容もある。今後も地域実態に即した通知を出していく。

③ 食育の推進

【取り組み・実績】

- 望ましい食習慣の確立
 - ・ 食に関心をもち健全な食生活を実践する力の育成
栄養教諭による「食に関する指導」及び「給食時間における指導」の目標値を設定
食に関する実態調査を全学校で実施

【成果・効果】

- ◎ 栄養教諭の校区内への訪問（指導）目標値を設定・提示し、校区内の学校との計画的な連携と実践の広がりを促した。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
食に関心をもち健全な食生活を実践する力の育成	低い	普通	継続

【課題・対応】

- 栄養教諭の取り組みを参考にできるよう、日常的に情報交換できる環境をつくる必要がある。

④ 体力づくりの充実

【取り組み・実績】

- 体力・運動能力の向上を図る組織的取り組みの充実
 - ・ 体育科の授業改善及び体育的活動の充実
- 個に即した継続的な体力づくりの充実
 - ・ 苦手種目の克服を視点とした取り組みの充実
 - ・ 運動に親しみながら体力を高める取り組みの奨励
「第54回庄原市少年少女水泳記録会（7/26）」を実施
「庄原市小学校教育研究会体育科部会研修会（8/5）」を実施し、表現運動についての講話、実技指導

「第44回広島県民体育大会陸上競技庄原市選考会（8/31）」を実施
 体力・運動能力テストの実施に向け、各学校で具体的な目標設定ができるよう指導・啓発
 各学校の実態に応じて、改善計画を補正するよう指導・啓発
 「令和元年度庄原市体力づくり研修会（1/17）」を実施

【成果・効果】

- ◎ 来年度の県大会兼中四国大会で庄原市から発表する表現運動について、指導の実際について共有することができた。
- ◎ 各記録会の参加に向けた取り組みを継続することで、小学生の体力運動能力に向上が見られる。
- ◎ 小学校陸上競技記録会の参加資格として標準記録を設定したことで、各学校において目標に向けて取り組む状況が見られる。
- ◎ 研修会で各校の工夫した取り組みについて共有することができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
体育科の授業改善及び体育的活動の充実	低い	普通	継続
苦手種目の克服を視点とした取り組みの充実	普通	普通	継続
運動に親しみながら体力を高める取り組みの奨励	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 体育科における授業改善の指導方法や具体的な事例を広め、市内に還元していく必要がある。
- 体力・運動能力テストにおいて、課題のあった走力に係り、改善に向けた具体的な取り組みについて研修する必要がある。
- 今後も各校の取り組み事例を紹介したり、講師を招聘して実技研修を実施したりしていく。

(4) 今日的課題への対応

① グローバル化に対応した教育の充実

【取り組み・実績】

- コミュニケーション能力の向上と自国及び他国文化の理解促進
 - ・ 英語力向上に向けた指導改善の支援
外国語教育研修会で小学校教諭に対して英語力向上研修を実施
小中学校校内研修に対する訪問指導
 - ・ 伝統・文化に触れる機会の充実
「古典の日（11/1）」の取り組み（伝統文化について学ぶ機会）

【成果・効果】

- ◎ 外国語科での授業の進め方について演習を中心とした研修会を実施し、小学校教諭の英語力向上につながっている。
- ◎ 「古典の日」や日本の文化に触れる機会を全小中学校で設けている。
- ◎ 地域と連携し、田楽などの伝統文化を学習し、発表している学校がある。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
英語力向上に向けた指導改善の支援	普通	普通	継続
伝統・文化に触れる機会の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 小学校外国語科の授業づくりについて各校で校内研修を充実させる必要がある。
- 本市では児童生徒が伝統や文化に触れる機会が多いが、外部に発信する力が弱い。発信する場の設定など工夫していく。

② 情報化に対応した教育の充実

【取り組み・実績】

- 情報活用能力の向上と情報モラル教育の充実
 - ・ 情報活用能力やプログラミング的思考を育む指導の充実
庄原市情報教育研修会を実施し、プログラミング教育の進め方について研修
 - ・ 情報モラルや情報を取捨選択、活用する力を育成する指導の充実
生徒指導主事等研修会で、スマートフォンの使い方などについて指導・講話

【成果・効果】

- ◎ 令和2年度から始まる小学校新学習指導要領に対する理解を深めることができた。
- ◎ 携帯電話・スマートフォンに対する啓発資料を研修会で活用した。
- ◎ 道徳の時間、学級活動等で情報モラルに係る学習を行う学校が増加している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
情報活用能力やプログラミング的思考を育む指導の充実	普通	普通	継続
情報モラルや情報を取捨選択、活用する力を育成する指導の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 全校に配備したタブレット端末を活用し、プログラミング教育等に関する授業研究を行っていく必要がある。
- 情報モラルは、今日的な大きな課題であるが、道徳の価値項目と直接結び付いていないため、年間指導計画へ位置付けて確実に指導するよう、工夫する必要がある。

③ 社会的自立に向けた教育の推進

【取り組み・実績】

- 将来の生き方を主体的に考えるキャリア教育の充実
 - ・ 幼保小中高等学校の連携による系統的なキャリア教育の充実
小中連携の取り組み（異年齢交流、中学生による小学生へのリトルティーチャー等）
中学校による職場体験学習を実施
 - ・ コミュニケーション能力や協働性等を高める取り組みの推進
「イングリッシュ・キャンプ（8/7）」を実施
各学校において「かかわり」を大切にされた授業づくり

【成果・効果】

- ◎ 各中学校区において、研究会を合同開催するなど、地域の実態に応じて特色ある取り組みが行われている。
- ◎ 各地域の実態に応じて、地域の方を訪ねたり、異校種訪問を行ったりしている。
- ◎ 授業の中では「かかわり」を大切にされた活動を取り入れている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
幼保小中高等学校の連携による系統的なキャリア教育の充実	普通	普通	継続
コミュニケーション能力や協働性等を高める取り組みの推進	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 各小学校において、スタートカリキュラム^(*)を作成し、保育所・幼稚園と小学校の連携を深める取り組みを進める。
^(*)スタートカリキュラム:幼児期の学びから小学校教育への円滑な接続を目的として、期待する児童の姿や生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫等を示した小学校第1学年（入学当初中心）のカリキュラム
- 多くの学校で限られた人間関係となることから、児童生徒に対して、様々な出会いの場を仕組むよう指導を行う必要がある。

④ 特別支援教育の充実

【取り組み・実績】

- 個に即した組織的な指導・支援の充実
 - ・ 発達障害等を有する子供への指導体制の充実
「特別支援教育支援員研修会（4/4）」を実施し、特別支援教育支援員の役割、具体的な支援について研修を実施
「第1回庄原市特別支援教育研修会（6/28）」を実施し、支援を必要とする児童生徒への指導体制等の充実について研修を実施

「第2回庄原市特別支援教育研修会（11/20）」を講師を招聘して実施し、通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒への指導・支援の方法について研修を実施。

- 就学前からの協働による教育相談の充実
 - ・ 社会参加に向けた早期からの一貫した支援の充実
 - 保育所等就学前機関への訪問
 - 4課連携（教育指導課・児童福祉課・社会福祉課・保健医療課）の充実
 - 巡回相談事業を実施

【成果・効果】

- ◎ 年度初めに特別支援教育支援員対象の研修会を行い、基礎的な内容を周知するとともに、支援の状況等について参加者同士が交流した。
- ◎ 研修会への管理職の参加により、組織的・計画的な支援体制の確立が進んできている。
- ◎ 保育所訪問及び5歳児検診後の保護者への教育相談等、就学前の早期からの連携を充実させることにより、子供の実態把握が進み、保護者の就学後の理解促進に繋がるとともに、適切な支援体制づくりが図られている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
発達障害等を有する子供への指導体制の充実	普通	普通	継続
社会参加に向けた早期からの一貫した支援の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 特別支援学級や通常の学級において、支援を必要とする児童生徒が年々増加しており、教職員や支援員の専門性の向上とともに、幼保小中の連携や支援体制の確立が一層必要となっている。研修会の参加者、内容等を考慮し、充実させる必要がある。
- 保育所と各小学校が取り組み課題を共有し、早期対応が行えるよう、今後も研修会や学校訪問などを通して周知徹底を図る。

⑤ 幼保小中連携の推進

【取り組み・実績】

- 学びの系統性・連続性がある教育活動の充実
 - ・ 幼児児童生徒の交流及び教職員の研修の充実
 - 各小学校に幼保小連携担当教員を位置付け、次年度以降の幼保小連携・接続について計画を作成
 - 「幼保小連携・接続に係る研修会（8/20）」を実施し、幼保小連携・接続の充実に向け、講話やスタートカリキュラムの作成・演習

【成果・効果】

- ◎ 各小学校が次年度以降の連携・接続について具体的に計画を立てている。
- ◎ 児童福祉課と連携し、研修会を実施することで、各小学校区での連携推進を行うことができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
幼児児童生徒の交流及び教職員の研修の充実	低い	普通	継続

【課題・対応】

- 就学前から小学校生活に不安を抱える保護者も多く、早めの連携が必要である。校区内の幼保小の連携について積極的に働きかける必要がある。

⑥ 県立学校の連携の推進

【取り組み・実績】

- 市内県立学校の教育活動の支援
 - ・ 学力や体力の向上、小中学校との連携を目的とした取り組み等の支援
県立学校への訪問を行った。(学校行事、研究会等)
 - ・ 小規模県立高等学校に対する教育振興補助事業の実施
広島県立高等学校再編整備基本計画において、統廃合検討の対象とされた市内県立高校(庄原格致高校、西城紫水高校、東城高校)を支援する団体に教育振興補助金を交付し、各学校の活性化、魅力ある学校づくり及び学力向上の活動に対し支援を行った。
市補助金:850千円×3高等学校=2,550千円

【成果・効果】

- ◎ 県立学校へ訪問することで、各学校の現状や特色ある取り組みについての理解が深まった。
- ◎ 各学校では小規模高校連携事業として芸術鑑賞やクリスマスコンサート等が実施され、学校の活性化を行っている。また、中学校や大学、地域と連携して生徒の学力向上などに取り組み、魅力ある学校づくりに繋がっており、入学者数の維持や卒業後の進路確保に一定の成果が得られている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学力や体力の向上、小中学校との連携を目的とした取り組み等の支援	低い	低い	継続
小規模県立高等学校に対する教育振興補助事業の実施	高い	高い	継続

【課題・対応】

- 県立学校と各小中学校との連携について実態を把握するとともに、より積極的な連携が進むよう助言が必要である。
- 当補助金制度が、令和2年度末で期限を迎えるため、これまでの3年間の検証を行い、継続や制度の見直しを行う必要がある。

(5) 教職員の資質向上

① 授業力の向上

【取り組み・実績】

○ 教職員の授業力を高める研修の充実

- ・ 「深い学び」を創造する授業研究の推進
市主催研修において、深い学びの創造を視点にした研修を実施した。
「第1回庄原市『学びの変革』推進協議会 兼 第2回庄原市初任者研修会（7/2）」
「第2回庄原市『学びの変革』推進協議会 兼 庄原市研究主任研修会（8/7）」
「第3回庄原市『学びの変革』推進協議会（2/28）」新型コロナウイルス感染症対策により中止
指導主事が各学校の校内研修及び市主催研修会において、深い学びを視点に指導講話を実施
- ・ 知識・技能の確実な定着を図る指導の徹底
指導主事が各学校の校内研修において、知識・技能の確実な定着を図る指導について指導・助言
- ・ 教科等の見方・考え方を働かせる授業の充実
指導主事が各学校の校内研修において、教科等の見方・考え方を働かせる授業について指導・助言

【成果・効果】

- ◎ 深い学びに向けた日々の授業改善に、多くの学校が取り組もうと研究を進めている。
- ◎ 授業で適用題を行う時間の確保や家庭学習へつなげる取り組みなど知識・技能の確実な定着を図る指導が工夫されている。
- ◎ 教科等の見方・考え方の具体について、研究授業をもとに具体的に指導・助言している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
「深い学び」を創造する授業研究の推進	普通	普通	継続
知識・技能の確実な定着を図る指導の徹底	普通	普通	継続
教科等の見方・考え方を働かせる授業の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 深い学びの具体的なイメージが明確になっていない学校がある。
- 授業によっては、児童生徒の学びを深めていくための支援等が不十分である。
- 児童生徒の知識・技能の確実な定着を図るためにねらい達成に向け、つながりのある授業づくり、確実にやりきらせる指導を徹底すること等が引き続き必要である。
- 単元における教科等の見方・考え方についての具体が明確になっていない学校もある。今後、校内研修だけでなく、市主催研修会も利用して、研修を深める必要がある。

② 教職員の人材育成

【取り組み・実績】

- 学び続ける教職員の育成
 - ・ 専門性を高め、人間性を磨く研修の充実
 県立教育センター専門研修講座、学校チャレンジサポート講座及びサテライト研修講座の受講、特設講座や特別セミナーなどの時代の要請による各種研修の受講を促進
 - ・ 経験年数に応じた研修の実施
 新規採用職員対象の学校訪問を行い、授業観察及び個別面談の中での指導・助言
 2・3・4・5年目の若年層教職員の学校訪問を行い、授業観察及び個別面談の中での指導・助言
 - ・ ふるさと庄原のことを積極的に学ぶ教職員の育成
 各学校における総合的な学習の時間や道徳の時間における積極的な教材発掘及び教材づくり、単元づくりへの支援

【成果・効果】

- ◎ 専門研修講座の受講者数は186名（前年度比14名減少）、チャレンジサポート講座及びサテライト研修講座の受講校数は15校（前年度比3校増加）であった。
- ◎ 学事係及び指導係の担当者が、新規採用職員・若年層職員対象者のチューターとなり、年間を通して職種に応じた指導・助言や、管理職との連携を行うことにより、対象者の人材育成を行っている。
- ◎ 若年層学校訪問を計画的に実施し、個に応じた授業改善の視点や業務遂行に係る指導助言を行うことができている。
- ◎ 各学校において、総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元づくりの見直しが進んでいる。
- ◎ 令和元年度「基礎・基本」定着状況調査質問紙調査(小学5年生・中学2年生)において、小学生では約90%、中学生では約82%の児童生徒が「自分の住んでいる地域が好き」と答えている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
専門性を高め、人間性を磨く研修の充実	普通	普通	継続
経験年数に応じた研修の実施	普通	高い	継続
ふるさと庄原のことを積極的に学ぶ教職員の育成	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 研修で学んだことを、各学校で還元し、広めていくことが必要である。
- 各チューターが継続的に対象者及び管理職と連携し、きめ細かい支援を行う。年間を通して職務遂行の状況を把握し、継続的に指導・支援を行う。
- 中学校対象者の授業改善の充実を図るため、専門性の高い指導を行えるよう指導主事の調整を行う。
- 地域の方との交流や、行事への積極的な参加を通して、より一層、地域への理解を図るようにする。

③ 教職員の服務管理の徹底

【取り組み・実績】

- 教職員の不祥事防止に向けた自覚の醸成
 - ・ 行動計画の展開等、不祥事根絶のための取り組みの徹底
各学校への服務管理の改善及び、不祥事防止委員会等の定例化及び機能化を推進
不祥事防止研修の充実と相談体制の機能化
定例校長会議での指導及び文書による通知
- 働き方改革に基づく業務改善の推進
 - ・ 「学校における働き方改革取組方針」の策定及びメンタル不調の未然防止
「学校における働き方改革取組方針」を策定
各学校における衛生委員会の定例化及び機能化を推進
定例校長会議での指導、文書による通知
毎月の報告及び校長ヒアリング等で各学校の状況を把握
初任者研修会でメンタルヘルス研修を実施
ストレスチェックを実施

【成果・効果】

- ◎ 不祥事防止委員会の年間計画に沿って研修を進めるよう指導することにより、各学校で教職員の服務規律の徹底を図った。
- ◎ 各学校で年間計画を基に定期的に衛生委員会を実施している。
- ◎ 衛生委員会では、入校・退校記録を活用して教職員の疲労の蓄積等の状況を把握し、個々の状況に即した指導を行っている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
行動計画の展開等、不祥事根絶のための取り組みの徹底	普通	高い	継続
「学校における働き方改革取組方針」の策定及びメンタル不調の未然防止	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 市内教職員による大きな不祥事案は生起していないが、不祥事の未然防止に向け継続した取り組みを行っていく。
- 市内教職員による交通事故及び交通違反数は、33件（昨年度33件）である。職員の服務規律の確保に向け、機会を捉え指導を行う。
- 勤務時間外の在校等時間が月80時間を超える教職員の数は、延べ210人（昨年度184人）で、昨年度よりも増加している。

(6) 学校教育環境の充実

① 学校運営支援組織の充実

【取り組み・実績】

- 学校組織マネジメントの充実
 - ・ 学校運営の改善を図る意見や学校評価の効果的な活用
各学校における学校評議員会、学校関係者評価委員会、学校保健委員会などでの外部からの評価を基に協議
 - ・ P T Aとの連携体制の充実
教育委員会と庄原市P T A連合会との協議

【成果・効果】

- ◎ 各学校では、学校教育目標の達成状況を学校評価や学校関係者評価で検証し、各委員会での意見や評価を学校運営に活用している。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学校運営の改善を図る意見や学校評価の効果的な活用	普通	普通	継続
P T Aとの連携体制の充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 各学校が設定している育成すべき資質・能力と学校教育目標との関連、それを踏まえた学校評価の評価項目について、整合が取れていない項目がある。

② 就学支援制度の充実

【取り組み・実績】

- 就学援助費支給制度による経済的支援の推進
就学継続が困難で経済的支援を必要とする児童生徒の保護者に対して就学援助費を支給
該当の特別支援学級在籍児童生徒の保護者に対して就学援助費を支給
- 私立幼稚園支援事業の実施
 - ・ 庄原幼稚園運営費補助金の交付
学校法人庄原学園 庄原幼稚園に対し、私立幼稚園運営を支援するための補助金を四半期概算払（8・9・12・2月）で交付
幼稚園運営費補助金 2,640 千円
学級割:400 千円×3 学級=1,200 千円
園児割:20 千円×47 人=940 千円
職員処遇改善補助金:500 千円
 - ・ 私立幼稚園就園奨励費補助事業の実施
本市在住の幼児が通い、保育料等の減免を実施している私立幼稚園に対し、国の幼稚園就園奨励費補助金交付要綱に準じ、補助金を交付（9月）することにより、保護者の経済的負担を軽減し、幼稚園教育の振興を図った。
庄原幼稚園 39 人 2,816,300 円
 - ・ 私立幼稚園第2子以降就園補助事業の実施

本市在住の第2子以降の幼児が通い、保育料等の減免を実施している私立幼稚園に対し、保育料等から幼稚園就園奨励費補助金の額を減じた額を補助金として概算払で交付することにより、多子世帯に対する経済的負担の軽減を図った。

庄原幼稚園 14人 643,400円

(第2子 8人 286,700円、第3子 6人 356,700円)

- ・ 私立幼稚園施設等利用費の給付

令和元年10月から子ども・子育て支援法改正（幼児教育無償化）により私立幼稚園の施設等利用費が25,700円を上限に無料とされたことから、本市在住の幼児が通う私立幼稚園を通じて施設等利用費を給付することにより、保護者の経済的負担の軽減と幼児教育の振興を図った。

- ・ 私立幼稚園副食費の給付

令和元年10月から国の実費徴収に係る補足給付事業実施要綱に準じ、低所得世帯及び第3子以降の園児の副食費を給付することにより、保護者の経済的負担軽減を図った。また、補足給付事業対象外となる私立幼稚園園児についても、子育て支援の観点から、補足給付事業対象者と同様に市費で副食費を給付し支援を行った。

- ・ 私立幼稚園入園料補助金事業の実施

令和元年10月から、私立幼稚園に入園した本市在住の第2子以降の園児保護者に保育料等から施設等利用費の額を減じた額の一部または全部を補助金として交付することにより、多子世帯に対する経済的負担の軽減を図った。

申請件数 3件 40,500円

- ・ 私立幼稚園預かり保育利用料補助金事業の実施

令和元年10月から、3歳に達した最初の3月31日を経過した園児及び3歳に達した最初の3月31日までの間にある市民税非課税世帯の園児の預かり保育利用料を補助することにより、保護者の経済的負担の軽減を図った。

申請件数 15件 155,600円

- 奨学金貸付制度の充実

- ・ 奨学金貸付等事業の実施

学習に意欲がありながら経済的な理由などにより高等学校などへの修学が困難な者に対し、庄原市奨学金による貸付を行った。

貸付実績（決算見込額）：22,092千円

貸付者数48名（新規貸付：9名、継続貸付：39名）

返還見込額（調定額）：32,015千円（現年分：31,411千円、過年度繰越分：604千円）

返還対象者：274名（旧市町制度貸付分：6名、現庄原市制度貸付分：268名）返還免除者を除く。

- 入学祝金の支給

本市在住の新小学校1年生241人、新中学校1年生264人を対象に支給した。

小学校：241人×20千円 4,820千円

中学校：264人×30千円 7,920千円

合計：505人 12,740千円

【成果・効果】

- ◎ 経済的な理由により、就学が困難な児童生徒へ就学援助費を支給することにより、就学の支援を行った。
- ◎ 少子化の影響で園児の確保に苦慮している庄原幼稚園に対し補助金を交付することで、幼稚園運営を支援し、幼稚園教育の充実・振興を図った。
- ◎ 比較的所得者層の園児が増加傾向であり、保護者の経済的負担軽減に寄与することができた。
- ◎ 私立幼稚園利用に要する経費（施設等利用費、副食費、入園料、預かり保育料）について、一定額を補助することで、保護者の経済的負担軽減と幼児教育の振興につながった。
- ◎ 奨学金の貸付を新たに9名決定し、今年度は48名の貸付を実施した。進学や経済状況の変化に伴う家計負担の軽減に寄与し、奨学生の修学を支援した。
- ◎ 市内定住者の奨学金返還免除について、12名の申請があり、返還免除決定者は累計83名となった。
- ◎ 入学祝金を支給することで就学を祝福し、児童・生徒の健全な育成を支援した。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
就学援助費支給制度による経済的支援の推進	普通	高い	継続
庄原幼稚園運営費補助金の交付	普通	普通	継続
私立幼稚園就園奨励費補助事業の実施	普通	普通	完了・終了
私立幼稚園第2子以降就園補助事業の実施	普通	普通	完了・終了
私立幼稚園施設等利用費の給付	普通	高い	継続
私立幼稚園副食費の給付	普通	普通	継続
私立幼稚園入園料補助金事業の実施	普通	普通	継続
私立幼稚園預かり保育利用料補助金事業の実施	普通	普通	継続
奨学金貸付等事業の実施	高い	普通	継続
入学祝金の支給	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 就学援助費の支給に向け、適切な就学事務を行っていく。
- 補助金の主な目的は幼稚園職員の処遇改善であることから、今後も継続して支援していく。
- 私立幼稚園就園奨励費補助及び私立幼稚園第2子以降就園補助事業は9月末をもって終了したが、10月から導入された幼児教育無償化を活用し、引き続き、保護者の経済的な負担軽減を図る。
- 幼児教育無償化の制度導入が年度中途であったため、事務処理に多くの時間を要した。次年度に向けて幼稚園等への給付事務処理の簡素化を図る。
- 奨学金返還金の収納対策については、新規返還者への指導・啓発や口座振替による返還などを行い、滞納防止に努める。また、滞納月・額が増加している者に対しては、本人または家族等への連絡や訪問等により、長期滞納防止に努める。
- 入学祝金支給日までの事務期間が短いため、効率的な事務処理が求められる。
- 市内住民登録者で市外の小中学校に入学する場合も対象となり、これらの把握が困難なことから、関係機関との連携や情報収集が重要である。

③ 学校施設・設備の充実

【取り組み・実績】

○ 学校施設設備の適正管理

・ 学校施設設備の維持管理

【修繕・改修工事】 事業費 30,203 千円

プールカートリッジ修繕・PC教室タイルカーペット張替（永末小）、プールポンプ交換（板橋小・高小・山内小）、プールろ過装置修繕・プールカートリッジ交換・EV用バッテリー交換（東城小）、飲料水ろ過装置ろ材交換（栗田小）、理科室・家庭科室排水、調理室給水修繕（口南小）、体育館入口の階段割れ目修繕・校舎雨樋改修（口北小）、正面玄関手摺修繕・雨樋修繕（高野小）、1階男女職員トイレ換気扇取替修繕（比和小）、国旗掲揚台修繕（総領小）、プール更衣室ドア取替工事（東小）、網戸設置工事（板橋小）、井戸ポンプ小屋壁転倒対策工事（栗田小）、側溝修繕及び土砂撤去工事・グラウンド排水改善工事（口南小）、2階廊下・階段手摺設置工事・転落防止パイプ設置工事（高野小）、防火シャッター改修工事・2階バルコニー手摺壁アルミ板取付工事（総領小）、折れ戸（イスターカーテン）・体育館放送設備・エレベーター非常電源用バッテリー交換修繕（庄原中）、炊事場修繕（西城中）、屋内消火栓ホース取替修繕（東城中）、教室ブラインド修繕・教室照明装置取替修繕（口和中）、ドアパッキン・鍵・滑車交換修繕・暗幕修繕（高野中）、校舎屋体渡り廊下修繕・エレベーター修繕（比和中）、私設量水器取替工事（庄原中）、多目的室空調設備整備工事・特別教室パーティション設置工事・身障者用トイレ改修工事（西城中）、バス待合所解体撤去工事（東城中）、雨樋石灰化除去工事（口和中）

【備品購入】 事業費 814 千円

扇風機（東小）、消火器（峰田小・東小）、シュレッダー・運動会用 PA システム（西城中）、シュレッダー（東城小）、特別教室用大型扇風機・職員給湯室電気給湯器（比和小）、特別学級用加湿器・グラウンド防球ネット・消火器（比和中）

・ 全域的教育環境等整備事業の実施

【全域的教育環境等向上事業】

遊具環境整備（6校）	805 千円
屋内運動場フロア環境整備（10校）	792 千円
トイレ環境改善（4校）	4,735 千円
空調環境整備（8校）	8,843 千円
児童生徒用机・椅子購入（6校 176台）	1,183 千円

○ 学校施設整備の促進

・ 小学校普通教室冷房設備整備事業の実施（繰越明許）

施設整備事業として、引き続き小学校普通教室冷房設置事業を実施した。

小学校普通教室冷房設備整備事業【いちばんづくり事業】

（川北小・小奴可小・八幡小・栗田小・比和小）

事業費 41,303 千円（平成 30 年度 3 月補正予算、令和元年度へ全額繰越）

・ 学校施設の整備方針・老朽化対策の検討

本市の学校施設については、平成 29 年度の庄原小学校改築事業により市内小中学校全ての耐震化が完了し、児童生徒の安全な学習環境は確保できた。しかし、多くの施設において老朽化が進行し、修繕等が必要な状況が発生しており、今後大規模改修や建替えに多額の費用が必要になることが予想される。このため、平成 28 年 3 月に策定した庄原市公共施設等総合管理計画に基づき、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及

び予算の平準化を図ることを目的として、学校施設の長寿命化計画の策定に取り組んだ。
(令和2年度策定予定。)

【成果・効果】

- ◎ 施設の老朽化等に伴う修繕・工事・備品整備を実施し、学校施設・設備の充実を図った。
- ◎ 施設の老朽化に伴う遊具環境整備・屋内運動場フロア環境整備、トイレ環境整備、空調環境整備、また児童生徒用机・椅子を購入し、重要度の高い全域的課題の解決及び施設設備の質的向上を図った。
- ◎ 平成29年度以降3年間で計画計上していた小学校普通教室冷房設備整備事業の3年目の事業に係る交付金が採択され、平成30年度3月補正において前倒しで事業着手した。事業費全額を令和元年度へ繰越し、冷房設備整備を行い、本年度で全小中学校普通教室への冷房設備整備が完了した。
- ◎ 学校施設は、市内小中学校全ての耐震化が完了し、児童生徒の安全な学習環境は確保できている。しかし、多くの施設において老朽化が進行し、修繕等が必要な状況が発生しており、今後大規模改修や建替えに多額の費用が必要になることが予想される。
こうした課題が全国的に生じていることもあり、都市整備課と協力して、施設調査を行った結果により作成した計画素案を庁内会議に付し、計画策定のため意見聴取を行った。

具 体 的 施 策	有効性	必要性	方向性
学校施設設備の維持管理	高い	高い	継続
全域的教育環境等整備事業の実施	普通	高い	継続
小学校普通教室冷房設備整備事業の実施（繰越明許）	高い	高い	完了・休止
学校施設の整備方針・老朽化対策の検討	普通	高い	拡大継続

【課題・対応】

- 施設の経年劣化に伴い、修繕が必要な箇所が多数存在している状況を踏まえ、緊急度や重要度等を測りながら計画的に修繕を行っていく必要がある。
- 学校施設整備の推進については、財源である学校施設環境改善交付金や起債との調整を図りながら進めていく必要があり、同交付金が採択されなかった場合は、事業実施について検討する必要がある。
- 建築から40年を経過する学校施設（プールを含む）については、庄原市学校施設長寿命化計画策定の取り組みを継続し、令和2年度での策定を目指す。なお、策定した計画に基づき、計画的に改修等を実施する予定であるが、整備年度や財源等について関係課と調整し、個別設計画を策定する必要がある。

④ 遠距離通学児童生徒への支援

【取り組み・実績】

- スクールバスの運行等による通学手段の確保
 - 【小学校】
 - スクールバス運行業務委託 104,709 千円
 - 登下校タクシー借上料 1,106 千円
 - 【中学校】
 - スクールバス運行業務委託 16,219 千円
 - 登下校タクシー借上料 986 千円
- 通学費援助事業の実施による保護者負担の軽減
 - 小学校通学費補助事業 901 千円
 - 中学校通学費補助事業 20,284 千円
 - 中学校クラブ通学費補助事業 163 千円
- 生活交通対策と連携した輸送手段の検討
 - スクールバスなどの運行について、生活交通対策と連携し、学校適正配置を見据えた輸送手段の最適化や児童生徒の体力低下への影響を考慮した通学支援内容の見直しを検討した。
- 東城中学校寄宿舎の運営
 - 東城中寄宿舎(定員 72 名：入寮 8 名) 10,055 千円

【成果・効果】

- ◎ 遠距離通学の児童生徒に対し、スクールバスやタクシーの運行等を行うことにより、通学手段を確保した。
- ◎ 遠距離通学の児童生徒に対し、通学費補助金や定期券等相当額を交付することにより、保護者の負担軽減を図った。
- ◎ スクールバスなどの運行について、生活交通対策と連携し、輸送手段の最適化や児童生徒の体力低下への影響を考慮した通学支援内容の見直しを検討した。
- ◎ 東城中学校寄宿舎の運営により、通学困難な生徒の就学を支援した。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
スクールバスの運行等による通学手段の確保	高い	高い	継続
通学費援助事業の実施による保護者負担の軽減	高い	高い	継続
生活交通対策と連携した輸送手段の検討	普通	普通	継続
東城中学校寄宿舎の運営	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 学校適正配置による児童生徒の輸送手段を含め、生活交通対策と連携し、輸送の最適化や児童生徒の体力低下への影響を考慮した通学支援内容を検討する必要がある。
- 市内唯一の寄宿舎である東城中学校寄宿舎について、今後の利用見込や費用対効果を検証しつつ、引き続き通学困難な生徒の就学を支援する。

⑤ 学校給食の充実

【取り組み・実績】

○ 安全・安心で効率的な学校給食の提供

- ・ 学校給食施設設備の維持管理

【消耗品費・修繕・工事・備品】 11,394 千円

調理機器修繕（各調理場）、自動反転ほぐし機他修繕（庄原）、給湯配管替修繕（峰田）、フライヤー等修繕（西城）、空調機器修繕・洗浄室ドア等修繕・冷蔵庫移設用電源設備工事・ビニールカーテン改修工事（東城）、事務室エアコン購入（総領）

- ・ 学校給食調理業務等の民間委託

庄原・口和・高野地域学校給食調理業務委託(4 施設)	145,327 千円
西城地域学校給食調理業務委託(1 施設)	28,675 千円
東城地域学校給食調理業務委託(1 施設)	36,333 千円
比和地域学校給食調理業務委託(1 施設)	13,449 千円
総領地域学校給食調理配送業務委託(1 施設)	12,790 千円

- ・ 衛生管理や異物混入対策の徹底

安全で安心な給食を提供するため、衛生研修会の開催や、平成 27 年度に作成した「学校給食異物混入等対応マニュアル」に基づく対応の徹底等、学校給食の衛生管理や異物混入対策の適切な実施・指導に努めた。

- ・ 食物アレルギーへの対応

食物アレルギーの対応について、平成 26 年度に作成した「庄原市アレルギー疾患の児童生徒対応マニュアル」に基づき、配慮・管理の必要な児童生徒の把握を行うとともに、医師の診断・保護者面談等を通じて決定した除去食等の対応を、保護者・主治医・教職員・調理場関係者の共通理解のもと実施した。

令和元年度アレルギーによる除去食等対応者数:78 人件(小学校 53 人・中学校 25 人)

○ 学校給食を活用した食育の推進

「食育の日」や「給食週間」等における郷土食や行事食の提供、栄養職員による栄養指導、広報しようばら、フェイスブック、給食だよりや学校放送の活用による啓発、試食会の開催等を通じて推進を図った。今年度からは新たに「減塩の日」「野菜の日」「和食の日」を設け、食について考える機会を増やした。

【成果・効果】

- ◎ 施設の改修及び備品等の購入により、安全で安心な給食の提供を行った。
- ◎ 学校給食の効率的運営を図るため、全地域で学校給食調理業務の民間委託を実施した。
- ◎ 「学校給食異物混入等対応マニュアル」に基づく対応の徹底等、学校給食の衛生管理や異物混入対策の適切な実施・指導に努めた。
- ◎ 食物アレルギーへの対応については、保護者理解のもとで円滑に実施することができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学校給食施設設備の維持管理	普通	高い	継続
学校給食調理業務等の民間委託	高い	普通	継続
衛生管理や異物混入対策の徹底	高い	高い	継続
食物アレルギーへの対応	高い	高い	継続
学校給食を活用した食育の推進	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 安全で安心な給食を提供するため、引き続き、施設・設備の維持改修を適切に行うとともに、衛生管理や異物混入防止等の指導を徹底する。
- 調理機器について計画的に修繕等を行っているものの耐用年数を経過し、修繕での対応が困難になりつつあるため、計画的に更新していく必要がある。
- 食物アレルギー対策については、対応マニュアル等に基づき、誤食事故を防止するため、引き続き学校・保護者等と綿密に連携を図り、常に細心の注意を払う。

⑥ 学校の適正規模・配置の推進

【取り組み・実績】

- 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画に基づく取り組みの推進
 平成 28 年 3 月に策定した教育振興基本計画に示した基本理念に基づき、次代を担う子供たちの学習環境をより良いものにするため、平成 30 年 1 月「庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画」を策定した。この計画の内容について理解をいただくため、学校適正配置の実施時期により 3 グループに分け、平成 30 年度より主に第 1 グループを対象に説明会等を実施できた。また、第 1 グループ以外の対象地域からも要望があれば説明会を実施し、学校適正配置への理解を求め、第 1 グループ 3 校について統合の合意を得た。

【成果・効果】

- ◎ 「庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画」のスケジュールに基づき、令和 3 年 4 月に統合を計画している第 1 グループに属した統合校の保護者・地域を対象に、計画の説明会を実施し、計画への理解を求め、川北小・美古登小・八幡小について計画どおり統合することに合意した。
- ◎ また、第 1 グループ以外についても、将来の学校の在り方や子供の教育について、出前トーク等により各種団体への説明や協議を行うとともに、情報提供を行った。

具 体 的 施 策	有効性	必要性	方向性
庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画に基づく取り組みの推進	高い	高い	拡大継続

【課題・対応】

- 対象の保護者や地域に対して説明会を開催しようにも全く話し合いに応じていただけないところがあるため、保護者や地域の方の意見を聞く機会を設けることができるよう、努力を続けていく。

2 生涯学習

(1) 生涯学習・社会教育の充実

① 学習機会の提供

【取り組み・実績】

○ 各種講座等の充実

- ・ 県立広島大学市民公開講座の開催

市民一人一人の生涯学習に対する関心が高まる中で、県立広島大学の多彩な講師陣による学習機会を設けた。大学との共催により平成2年から継続して実施し、30年目の開催となった。

前期講座「性について考える」(6/27～7/18：4回講座) 実21人 延べ49人が受講
後期講座「庄原の生活と環境を考える」(10/28～11/19) 実22人 延べ63人が受講

- ・ 生涯学習地域事業の実施

各地域の状況や課題に応じた生涯学習事業を実施した。

【西城】小学校等への読み聞かせ出前講座を実施(講師：おはなし会)(報償費29千円)・西城町美展(負担金95千円)・であいとふれあいフェア(負担金165千円)

【東城】ふれあい文化振興事業実施(東城文化ホールを活用した芸術作品等)(167千円)

【口和】口和中学校神楽同好会の活動支援等(100千円)

【総領】絵本読み聞かせの会支援

- ・ 成人式の実施

8月15日(木)開催予定であったが、台風の接近により、8月13日に中止を決定。プレスリリース・住民告知端末による放送・ホームページ・フェイスブックで周知を行った。また、出席者については、出席希望のあった成人者約220名及び来賓156名に電話にて中止の旨を連絡した。

その後、再実施について検討し、令和2年1月4日(土)の開催を決定。8月20日にはプレスリリース・住民告知端末による放送・ホームページ・フェイスブックで周知し、対象者へは文書での案内を行った。

【実施内容】

開催日：令和2年1月4日(土) 於：庄原市民会館

対象者：315人

記念行事：永江太鼓(太鼓演奏)・大津真一(メッセージ・演奏動画上映)

記念品：図書券・記念写真

○ 人権教育の推進

- ・ 地域における人権教育学習会や講演会の充実

地域学習会：自治振興区を中心に、講師(人権推進委員等)を招いて、講演会・地域学習会を開催した。

【庄原】地域学習会74回 【東城】地域学習会6回 【口和】地域学習会7回 【高野】

地域学習会1回 【比和】地域学習会1回 【総領】地域学習会1回 【事業所】

事業所学習会6回

※新型コロナウイルス感染拡大の懸念から、年度末の学習会実施を自粛された地域があった。

人権講演会：

【東城】東城人権講演会（9/19 東城文化ホール）150人

【比和】比和人権講演会（11/19 比和自治振興センター）100人

【庄原】人権講演会（12/5 庄原市民会館）400人

人権啓発セミナー：8/9 市役所本庁市民ホール

9/27、11/6～7 庄原市ふれあいセンター

パネル展：市内各地域

8/1～8/30 「平和パネル展『ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展』開催

10/17～12/5 「女性と人権」パネル展

人権啓発映画上映：7/19～8/21 市内各地域で「ぼけますから、よろしくお願ひします。」上映

ヒューマンフェスティバル2019（総領）：人権啓発DVD「君が、いるから」上映

・ 人権教育推進委員活動の推進

任期満了に伴い、4月1日から新たに2年の任期で、人権教育推進委員90人を設置した。（庄原地区38人・西城地区8人・東城地区26人・口和地区4人・比和地区3人・高野地区6人・総領地区5人）

辞令交付及び研修会とDVD試写会を同時開催とすることで委員の負担軽減を図ると共に、研修と位置付けているDVD試写会への参加を促進させた。

7/1：人権推進委員辞令交付及び研修会（DVD試写会）（庄原市役所）（参加者43人）

10/11：県人権教育指導者養成研修会参加（尾道市）（参加者4人）

各担当地域において開催される学習会、研修会等に講師、補助員として参加

・ 人権作品の募集

応募総数1,176点（標語の部1,146作品・作文・詩の部21作品・ポスター絵画・写真詩画9作品）

11/13：審査会（各部門最優秀賞3作品、優秀賞21作品、入選23作品）

12/5：人権講演会において表彰（最優秀賞、優秀賞）

優秀作品は、人権啓発事業等に活用

・ 啓発資料の提供・活用

人権啓発資料として、人権啓発ビデオ2本（「君が、いるから」「『やさしく』の意味～おばあちゃんは認知症だった」）購入し、地域学習会で活用

貸出申請件数：74件

○ 放課後子供教室の充実

・ 放課後子供教室の拡大と放課後児童クラブとの連携

庄原市放課後子ども総合プランに基づく学校の余裕教室を活用した開設は学校施設管理の問題から開設が困難なため、プランの趣旨に沿った子供に対する体験学習（放課後児童クラブの利用児童が児童クラブ開設時間内に体験活動等ができる）の実施について引き続き児童福祉課と連携して開設に向けて取り組んでいる。

「放課後子ども総合プラン」放課後子供教室の整備計画 令和元年度：19ヶ所

放課後子供教室開設状況：令和元年度：9ヶ所

放課後子ども総合プランの趣旨に沿った子供の体験学習の実施状況：令和元年度：3ヶ所（連携型：庄原・比和・上高（未来塾））

令和2年度地域学校協働活動推進事業についての説明会及び研修会に参加し、情報収集を行った。

国予算説明会：10/2（岡山市）、県説明会：10/10（広島県庁）

地域と学校の連携・協働体制構築研修会：12/6（広島県庁）

県重点事業説明会：12/26(三次合庁)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小学校の臨時休業に伴い、3月は臨時的に時間を延長して開設した。(補完型7教室開設)

○ 地域課題等に対する学習活動の推進

・ 地域力醸成事業の推進

住民自らが地域課題の解決に向けた活動に結びつけていく力を醸成するため、現代的課題や地域の課題を解決する事業を、自治振興センターを中心に展開した。

開催実績：56事業 参加者2,149人

【成果・効果】

- ◎ 県立広島大学との連携による市民公開講座では、市民の学習機会を提供することができた。受講者アンケートに基づいた市民の関心の高い内容とし、実験や体験を交えた内容としたため受講者も多く好評であった。
- ◎ 各地域における生涯学習事業は、学習成果を地域社会の中で生かしていけるような場を提供することで、市民の学習意欲の向上につながっている。
- ◎ 成人式の開催により、成人としての責任等を自覚する機会となっており、庄原市出身者による講演会は、自らの経験をもとに、新成人を激励し、勇気づけている。就学や就職により、地元を離れて暮らす同級生と久しぶりの再会は、故郷を懐かしく思い返す機会となっている。
- ◎ 自治振興区を中心とした各地域での人権学習会の開催は、市民生活課による人権啓発映画の上映、人権啓発行事等の啓発活動への参加促進とあわせて、市民への人権学習の機会となっている。人権教育推進委員は現在90名委員委嘱しており、地域学習会の開催や参加促進等にかかわっている。庄原市企業人権啓発推進連絡協議会においても資料提供することにより、地域だけでなく、企業でも人権学習会で利用されるようになった。人権啓発のための作品を募集し、人権問題について考える機会を設けることで、人権意識の高揚と意識啓発を図った。
- ◎ 安全・安心な活動拠点として、放課後子供教室利用者が年々増加している。放課後児童クラブの補完型だけではなく、子供の体験教室として実施する自治振興区もある。
- ◎ 地域力醸成事業では、自治振興区を中心に、他の団体等と連携や地域住民との協力を得ながら、世代間交流や家庭教育支援等の事業が実施された。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
県立広島大学市民公開講座の開催	普通	普通	継続
生涯学習地域事業の実施	普通	普通	継続
成人式の実施	普通	普通	継続
地域における人権学習会や講演会等の充実	普通	高い	継続
人権教育推進委員活動の推進	普通	高い	継続
人権作品の募集	普通	普通	継続
啓発資料の提供・活用	普通	普通	継続
放課後子供教室の拡大と放課後児童クラブとの連携	普通	普通	継続
地域力醸成事業の推進	普通	高い	継続

【課題・対応】

- 県大公開講座は、受講者が固定化の傾向はあるため、関心の高い内容をテーマ設定し、より多くの市民に情報提供を行っていく必要がある。
- 地域における生涯学習事業では、より多くの市民が関わる機会となるよう、運営や周知方法等の見直しを行う必要がある。
- 成人式は、台風の影響により開催を延期することとなったが、対象者に中止の連絡が取れない場合もあった。開催通知に、中止・延期の告知方法を記載し、参加者自らが確認する等の手法について検討する。
- 地域により、人権学習の機会の持ち方や参加の仕方が異なり、統一的な地域学習会とはなっていないが、多くの人々が参加しやすい体制での実施を促すとともに、市民生活課が実施する講演会等への参加の呼びかけ、市民が参加しやすい学習の場を提供する。様々な視点から人権課題について学習できるよう幅広い課題についての資料提示を行う必要がある。人権作品の募集では、学校の取り組み状況に差があるため、校長会等を通じて応募を呼びかける。
- 自治振興区が放課後児童クラブの利用児童も参加できる体験活動等の充実を図り、他の事業との連携を兼ねた開設に向け、情報収集を行う必要がある。また、学校の適正配置後の運営体制について情報収集と開設に向けた整備を行う必要がある。
- 放課後児童クラブの補完として開設している放課後子供教室では、子供の居場所を確保する観点から、新型コロナウイルス感染症拡大の中においても、各関係機関との連携を図って実施する。
- 各事業実施の際には、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を講じる必要がある。
- 地域力醸成事業では、効果の高い事業をより充実させるため、事業内容を広く周知する必要がある。

② 学習活動の支援

【取り組み・実績】

- 自治振興区における生涯学習の推進
 - ・ 生涯学習委託事業の充実

各自治振興区に生涯学習事業を委託し、生涯学習活動と自治振興活動を一体的に推進することにより、各地域において、地域活動と連動し、特色を生かした生涯学習事業を実施している。(22自治振興区)

平成30年度から事業評価を実施しており、自治振興区巡回事業において評価対象事業2事業を選定し、事業観察を行い、実施状況の把握に努めた。

新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から、3月に予定していた事業の実施ができない地域もあった。
 - ・ 自治振興区職員研修会の実施及び各種研修会への参加の促進

自治振興区職員の資質向上を目的に、研修会の開催、各種大会・研修会等に参加
県等主催の研修会等

5/24：県生涯学習振興・社会教育関係職員研修基礎研修（三次市・参加者5人）
6/7・6/28：県生涯学習振興・社会教育関係職員研修学習プログラム研修
（広島市・参加者1人）
7/19：「学びから始まる地域づくりプロジェクト」コーディネーター研修
（世羅町・参加者3人）

9/5・9/6：全国公民館研究集会徳島大会（徳島県・参加者2人）

10/17：県公民館大会（廿日市市・参加者10人）

10/25・10/31：県生涯学習振興・社会教育関係職員研修社会教育主事等研修
（広島市・福山市：参加者4人）

11/29：県公民館等職員研修（神石高原町・参加者4人）

市主催研修会

7/22：自治振興センター職員研修（東城自治振興センター・参加者25人）

2月実施予定であった自治振興区事務局長等研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

○ 社会教育関係団体等の育成・支援

- ・ 地域女性団体連絡協議会、子ども会連合会等の活動支援

【庄原市地域女性団体連絡協議会】

男女共同参画社会を目指し、生活者の立場から地域コミュニティづくりを目指す庄原市地域女性団体連絡協議会の各種活動を支援

【庄原市子ども会連合会】

子供育成の指導者を養成し、青少年健全育成に寄与する庄原市子ども会連合会の各種活動を支援

【庄原市青年団体】

町内で開催する各種事業を通して、若者同士の交流をはじめ地域住民との相互連携を図ることを目的に活動する青年団体を支援

○ 生涯学習情報の収集及び発信

- ・ 広報誌や市ホームページ等の活用

各自治振興センターより広報誌を収集し、他の自治振興センターへ情報提供を行った。月1回月刊公民館の特集記事をメールで各自治振興センターへ提供

- ・ 生涯学習事業実践事例集等学習情報の提供

自治振興センターで実施される生涯学習委託事業のモニタリング事業から1事例を選定し、事例集を作成し、ホームページ上で公開した。

【成果・効果】

- ◎ 生涯学習委託事業では、評価対象事業の選定・モニタリングを実施することで、事業実施の状況把握、事業の質の向上につなげるとともに、全自治振興区との連携が深まり、地域状況を知る機会となった
- ◎ 県等が主催する研修会のほか、市教育委員会主催の研修会への参加を促進することにより、社会教育推進に必要な知識の習得や理解を深め、自治振興区職員の相互交流を通じた関係づくりを促した。
- ◎ 各種社会教育団体への支援により、市内社会教育団体の活動の活性化を図った。
- ◎ 県内の公民館や全国的な事例等についての情報収集・情報提供を行うことで、事業の質の向上、市民参加の促進を図った。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
生涯学習委託事業の充実	普通	高い	継続
自治振興区職員研修会の実施及び各種研修会への参加促進	普通	高い	継続
地域女性団体連絡協議会、子ども会連合会等の活動支援	普通	普通	継続
広報誌や市ホームページ等の活用	普通	普通	継続
生涯学習事業実践事例集等学習情報の提供	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 生涯学習事業は、事業数が多く、内容也多岐にわたり、社会教育主事が計画段階から関わる
ことが困難であるため、自治振興区と連携をとり事業を推進する必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を講じての事業実施が必要となる。
- 各地域の課題に対応した事業が展開されるよう、引き続き職員研修を充実し、自治振興区職
員の能力向上を図る必要がある。
- 各社会教育団体の実情を把握し、補助金の使途や活動内容について指導していく必要がある。
- 紙媒体でしか広報誌を発行していない自治振興区には、広報誌を忘れずに送付してもらうよ
う声掛けが必要である。
- 県内の公民館や全国的な事例等についての情報収集・情報提供を行うことで、事業の質の向
上、市民参加の促進を図る必要がある。

③ 読書環境の充実

【取り組み・実績】

○ 図書館機能の充実

・ 図書館資料の整備

令和元年度 3,663 冊 6,294,889 円（図書購入予算執行率 99.9%） 計画的に購入
県立広島大学より、倉田百三・火野葦平関係の書籍（181 冊）受贈
青木笙子氏より倉田百三関係の書籍を受贈

・ 図書館サービスのための人材育成及び運営体制の充実

県主催の研修会への参加を呼びかけた。図書館情報提供システムの操作等については、
電話等にて随時支援した。

図書館職員の研修として、11/25 県立図書館巡回訪問にて「レファレンス入門」につい
て講義を受けた。また、図書館情報提供システム研修等を 2 回実施し、合わせて実態や要
望などを聞き取った。

2 月の蔵書点検の際には、各分館を業者と巡回し、機器の操作方法を研修

○ 子供の読書活動の推進とネットワークの構築

・ 庄原市子供の読書活動推進計画（第三次計画）の推進

子育て施設等における絵本の整備を図るため、市立図書館の除籍本の活用を検討し選書
した。

毎月、テーマを決めて、絵本や児童書の企画展示を実施

ヤングアダルトコーナーの充実

教育指導課と連携し、子供司書の受け入れを行い、児童の読書活動の充実を図った。

（令和元年度受講者：14 名）

・ 赤ちゃんが絵本に触れ合う活動

H23 年度から「赤ちゃんが絵本にふれあう活動」として 4 カ月児と 1 歳 6 カ月児を対象
に絵本を配布し、読書活動の大切さを伝えている。4 カ月児へ 147 冊、1 歳 6 カ月児へ 182
冊配布。

・ 読書活動ボランティアの育成・支援（ネットワーク化の推進）

おはなしボランティア講座の開催： 第 1 回 5 月 26 日「夏から秋 子供向け図書の紹介」
参加者 15 人、第 2 回 7 月 14 日「持ち寄りブックトークの会」 参加者 14 人、第 3 回 3
月の開催は中止した。（3 月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

読書ボランティア団体の定期のおはなし会開催を支援した。(3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

令和元年度実績：本館 11 回・西城 5 回・東城 11 回・口和 11 回・高野 10 回・総領 11 回)

【成果・効果】

- ◎ 図書館資料は幅広い分野から選書し、多くの市民の利用があった。
- ◎ 県立広島大学より図書の寄贈があり、図書の充実を図ることができた。引き続き連携を図る必要がある。
- ◎ 図書館職員の人材育成、運営体制の整備のため、研修機会を充実するとともに、読書ボランティアと学校司書が情報交換することができた。
- ◎ 子供の読書活動推進計画（第三次計画）に基づき、子供が本に触れ合う機会や環境を整えることが出来た。
- ◎ 赤ちゃんが絵本に触れ合う活動では、読書ボランティアと図書館職員で協力し、多くの子供に、絵本に触れ合う機会を提供できた。
- ◎ 研修会において、読書ボランティアだけでなく、学校司書や学校関係者等と情報交換を行い、ネットワークを広げることができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
図書館資料の整備	高い	高い	継続
図書館サービスのための人材育成及び運営体制の充実	普通	高い	継続
庄原市子供の読書活動推進計画（第三次計画）の実施	普通	高い	継続
赤ちゃんが絵本に触れ合う活動	普通	高い	継続
読書活動ボランティアの育成・支援（ネットワーク化の推進）	普通	高い	継続

【課題・対応】

- 多くの市民に図書館を利用いただくため、引き続き計画的な図書購入を行う。
- 図書館サービスの充実を図るため、研修の機会を充実すると共に、より多くの職員の参加を促す必要がある。
- 読書ボランティア等の子供の読書活動に関わる機関とのネットワークをさらに充実させ、情報共有、意見交換を行う必要がある。
- 子供の読書活動推進計画の進捗状況の確認や事業評価を毎年行う。
- 1歳6カ月児から小学校入学までの子供の読書機会充実に向けた取組を行う必要がある。

(2) 芸術・文化の推進

① 芸術・文化活動の推進

【取り組み・実績】

- 芸術・文化意識の高揚
 - ・ 「庄原市美術展覧会」「県美展巡回展の開催」「文化講演会」の開催
 庄原市美術展：11/3～14 入場者数 410 人（昨年 394 人） 応募作品 188 点 昨年まで、作品を前期後期と分けて展示していたが、今年度は全作品を展示した。
 広島県美術展：9/11～15 入場者数 374 人（昨年 339 人）
 文化講演会：2/22「山内氏 甲山城物語」講師：曾根淳治氏（山内郷土史研究会）64 人

- ・ 市役所ロビーコンサートの実施・拡大
毎月第4月曜日の昼休憩時（12:15～13:00）に開催。
11 回開催（3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）・来場者数約 1,541 人
6月・9月には東城支所市民ホールにおいて夕方（17:30～18:30）に開催
2 回開催・来場者数約 260 人
7月28日（日）には、庄原市民会館において100回達成記念演奏会を開催
来場者数 541 人
- ・ けんみん文化祭ひろしま備北地区フェスティバル庄原大会の開催支援
生涯学習の活動、発表の場でもあり、次年度のけんみん文化祭県大会の予選会でもある備北地区フェスティバルの開催に向けて支援した。
3/15 開催中止（東城文化ホール）（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
※大会中止のため、令和2年度のけんみん文化祭への団体推薦はしないこととした。
- ・ 本物の芸術・文化に触れる機会の提供
「あおぞら金管合奏団」「ベルクワチュール」が市内の保育所（比和・高野・みどり園・聖慈）・小学校（東・峰田・西城・総領）を巡回し、ミニコンサートによる、児童・園児に生演奏を聴く機会を提供し、身近に芸術に触れる機会を提供。実施期間：9/20～10/17 8 回公演
本物の舞台芸術体験事業として、市内小学生（5・6年生）と引率教諭を対象に、劇団東少ミュージカルによる「アルプスの少女ハイジ」を実施
開催日：9/13 参加小学校数：19校 参加人数：553人 場所：庄原市民会館
- 文化団体等の育成・支援
 - ・ 庄原市文化協会等の活動支援
市内の文化団体並びに会員相互の交流を進め、文化的な教養の充実を図るとともに、連携して市民の文化活動の振興と地域文化の高揚を図ることを目的に活動する庄原市文化協会の活動を支援した。
庄原市文化協会は、庄原支部をはじめ、旧町単位の支部活動のほか、庄原文芸大会、会報「しょうばらの文化」「庄原文芸」の発行や、共催事業として庄原市美展、アート多愛夢を運営した。
 - ・ リーダーや指導者育成のための研修機会の設定
ミュージカルを通して、子供の表現力や想像力を養い、舞台芸術に触れることでこれからの文化芸術の担い手を育成するため、今年で第20回公演を迎える庄原こどもミュージカルの活動を支援した。（2,500千円）
10/27「オズの魔法使い」開催（2回公演、庄原市民会館）
- 芸術・文化施設の活用促進
 - ・ 庄原市民会館等大規模改修にかかる整備基本計画の策定（庄原市芸術文化振興審議会）
平成30年度に策定した「庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備に関する方針」に基づき、庄原市民会館と庄原自治振興センターの大規模改修にかかる基本計画を策定した。
9月：基本計画策定委託契約締結 相手方：(株)あい設計 委託期間：令和元年9月30日～令和2年3月31日 委託料：14,577,200円（生涯学習課予算分：8,600,548円）
3月：基本計画及び基本設計の納品を受けた。
計画策定にあたり、庄原市芸術文化振興審議会においての意見を反映させた。
審議会開催日：5/20、11/26、3/25

- ・ 庄原市民会館・東城文化ホール等の利用促進

【庄原市民会館】

市民の文化の向上及び住民福祉の増進を図るために設置している庄原市民会館の管理運営。

- 4/28 映画上映会「日日是好日」 入場者数：435人
- 7/28 ロビーコンサート100回達成記念コンサート 入場者数：541人
- 9/13 本物の舞台体験事業「アルプスの少女ハイジ」 入場者数：553人
- 11/4 グランプリコンサート2019「デュオ・プロコピエフ・ダフチャン」
入場者数：150人
- 11/22 NHK公開録音「真打ち競演」 入場者：522人
- 12/22 映画上映会「アナと雪の女王2」 入場者：698人
- 3/15 遠藤さつき 備北路 早春のコンサート（延期）
指定管理期間：平成29年4月1日～令和4年3月31日
指定管理料：34,275千円 ・施設修繕費：412千円

【東城文化ホール】

市民の文化の向上及び住民福祉の増進を図るために設置している東城文化ホールの管理運営。

- 6/8 泥落とし映画会「じんじん～其の二」 入場者数：170人
- 8/20 夏休み子ども映画劇場「ボス・ベイビー」 入場者数：220人
- 8/31 林家ひろ木ふるさと落語会 入場者数：260人
- 10/19 ふれあいステージ（共催） 入場者数：300人
- 11/10 宝くじ文化公演「ドラミング・ハイ！」 入場者数：350人
- 1/19 東城ミュージックコンサート 入場者数：450人
- 2/29 東城自治振興区まつり発表会（中止）
- 3/14 遠藤さつき 備北路 早春のコンサート（中止）
指定管理期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日
指定管理料：9,667千円 ・施設維持管理経費：316千円

- ・ 庄原市田園文化センターの利用促進及び適切な管理運営

空調設備のA重油焚吸収冷温水機交換・ファンコイルユニット交換工事
21,920千円(平成30年度明許繰越)

エレベーター修理926千円、排煙窓修理155千円(12月補正)

指定管理者制度の導入等管理運営方針について協議・検討を重ねている。

- ・ 庄原市田園文化センター30周年記念事業の企画・実施

アール・ブリュット展「岡一郎の視点」：社会福祉法人庄原さくら学園と共催で開催。
市民の文化活動を支援し、地域の文化振興を図った。

開催期間：9/19～23 入場者：428人

図書館まつり：市民の読書活動の推進と、市立図書館を含めた田園文化センターの利用促進を図るため、市民が本とふれあう、また、当館を知っていただく機会として、「図書館まつり」を開催した。

来場者記念品として不織布バッグ、ウォークラリー参加記念品として記念缶バッジを製作し、配布した。9/14開催 入館者：645人

内容：写真絵本作家 小寺卓矢さんスライド&トークイベント、子供司書・おはなし会（おはなしのいずみ）、クラフトコーナー（しおり作り）、お抹茶体験（口和の会）、館内ウォークラリー、古本市(雑誌等の除籍本)

【成果・効果】

- ◎ 「庄原市美術展覧会」の出品作品は、書道の部に高校生から多く応募があった。
- ◎ ロビーコンサートは100回目を迎え、広く市民に定着している。また、昨年度に引き続き東城でもロビーコンサートを2回開催し大変好評であった。
- ◎ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2月下旬からの行事を中止とした。
- ◎ 本物の芸術・文化に触れる機会の提供については、ワークショップにより、子供たちが学校で体験できる機会を提供した。
- ◎ 庄原市文化協会への支援により、庄原市全体の文化活動の活性化を図った。
- ◎ こどもミュージカルを通して子供の健全育成を図るとともに、参加した大学生等の文化芸術の担い手の育成を行った。
- ◎ 老朽化した庄原市民会館・庄原自治振興センターが市民の活動拠点として使いやすい施設として生まれ変わるための計画を策定した。
- ◎ 庄原市民会館、東城文化ホールについては、指定管理により施設を管理するとともに、NHKとの連携による公演や宝くじ文化公演を開催するなど、各種ホール活用事業の実施により、市民に幅広い芸術、文化に触れる機会を提供した。
- ◎ 田園文化センターは、郷土に根ざし、市民の文化の向上及び生涯学習の推進を図り、親しみやすい館運営を目指してきた。令和元年度で30周年を迎えることができ、多くの方々に、来場いただいた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
「庄原市美術展覧会」「県美展巡回展の開催」「文化講演会」の開催	普通	普通	継続
市役所ロビーコンサートの実施・拡大	普通	普通	継続
けんみん文化祭ひろしま備北地区フェスティバル庄原大会の開催支援	普通	普通	継続
本物の芸術・文化に触れる機会の提供	普通	普通	継続
庄原市文化協会等の活動支援	普通	普通	継続
リーダーや指導者育成のための研修機会の設定	普通	普通	継続
庄原市民会館等大規模改修にかかる整備基本計画の策定(庄原市芸術文化振興審議会)	普通	高い	終了
庄原市民会館・東城文化ホール等の利用促進	普通	普通	継続
庄原市田園文化センターの利用促進及び適切な管理運営	普通	普通	継続
庄原市田園文化センター30周年記念事業の企画・実施	高い	高い	終了

【課題・対応】

- 「庄原市美術展覧会」は、年々、入場者数が減少している現状があることから、広報活動を積極的に行う必要がある。
- ロビーコンサート出演者については、本市ゆかりの音楽活動家について情報収集が必要。
- 市民の文化活動の振興と地域文化の高揚を図るため、引き続き庄原市文化協会が主体となって活動してもらうことが望ましい。
- より多くの市民に本物の芸術・文化に触れる機会を提供する必要があることから、文化活動に巻き込むために広報等の支援を積極的に行う。
- 文化協会や関係団体と連携して、研修の情報提供や機会を増やしていく必要がある。
- 庄原市民会館については、施設の老朽化により、利用者ニーズに十分に対応できない状況にあるため、改修までの間、必要に応じて施設、設備の修繕等により対応していく。また、今後の改修スケジュールによって、休館期間の周知が必要となり、施設利用者への周知、代

替施設等の市民広報について、指定管理者と協議を行う。

- 田園文化センターは平成元年開館以降、30年以上が経過し、老朽化が進んでおり、特に多目的ホールは雨漏り等による壁面、床、天井への汚れが目立つ状態になっている。今後、施設全体の修繕箇所について精査し、計画的に修繕を行う。

② 文化財の保存・活用

【取り組み・実績】

○ 文化財の保護・管理の推進

- ・ 指定文化財の草刈等の環境整備
通常の日常管理業務の実施 3,609 千円
重要文化財（建造物）「広島県重要文化財寿福寺禅堂建造物保存修理事業（災害復旧）」の保護管理事業に係る補助金交付（繰越事業） 2,106 千円
史跡名勝天然記念物の草刈等環境整備事業
現状変更対応 23 件
- ・ 佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書の発行
佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書（総括報告書）を発行
- ・ 佐田谷・佐田峠墳墓群の国史跡指定に向けての調整
広島県教委との協議や佐田谷・佐田峠墳墓群調査指導等の調整
（決算額は「開発に伴う埋蔵文化財の協議届出等への対応」に含む）

○ 文化財の活用推進

- ・ 比婆いざなみ街道物語の推進
比婆いざなみ街道物語の推進を実施した。
文化財の案内標識と説明看板については、未作成の物件を中心に作成に取り組んだ。本年度は高野地域を中心に設置した。
活用事業（文化財管理謝金・管理委託・管理補助金） 258 千円
看板設置事業（案内標識 3 基・説明看板（新規 1 基・修理 1 基） 586 千円
- ・ 文化財ガイド養成講座の実施
3月に庄原市観光協会と共同で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

○ 文化財の継承・啓発

- ・ 無形民俗文化財保存団体への支援
通年の無形民俗保持団体への補助金支援を実施するとともに、民俗芸能振興協議会を通じて連携を図った。
今年度は、中国・四国ブロック民俗芸能大会へ出場した「小奴可地区芸能保存会」への支援を実施した。また、隔年で開催している庄原市民俗芸能大会への支援を実施した。
（2/16 実施 参加者 400 名）
- ・ 市史・町史誌の活用促進
ふるさと納税での贈呈や関係者への配布等を通じて、活用促進に努めた。
- ・ 文化財調査年報（文化財だより）の発行
文化財調査年報の作成に取り組み、発行した。（300 部）
- ・ 文化財指定への取り組み
文化財保護審議会委員から意見があった各地域の文化財調査を実施し、指定候補の「甲

山古墳」の測量調査等に取り組んだ。今年度の保護審議会で新たに「野田大山山炭窯跡」の指定を行った。

○ 埋蔵文化財への対応

- ・ 開発に伴う埋蔵文化財の協議・届出等への対応

年間数十件協議がある埋蔵文化財協議及び届出等について、早期に実施できるよう、相手方と綿密な調整を行った。(令和元年度 66 件)

- ・ 埋蔵文化財発掘調査資料の整理・保存

林道整備事業にともなう「芝山たたら跡」の発掘調査を実施した。現地調査を終了し、来年度の報告書作成にむけて整理作業を実施した。

林道整備事業 2,003 千円

- ・ 庄原市埋蔵文化財センターの活用・充実

平成 30 年度に埋蔵文化財センターの資料整理を行い、本格的に管理・活用を実施している。

令和元年度は、林道整備事業に伴う「芝山たたら跡」発掘調査や市内の埋蔵文化財調査等に伴う拠点施設として埋蔵文化財センターを活用した。また、センター内に保管している収蔵資料を活用し、郷土学習支援事業の展開を図った。

【成果・効果】

- ◎ 文化財の草刈等の環境整備を実施することにより、文化財周辺の環境を保全することができた。
- ◎ 佐田谷・佐田峠墳墓群の国史跡指定に向けての資料整理及び報告書作成の調整ができた。
- ◎ 比婆いざなみ街道関連の説明板を設置し、文化財の周知に努めた。
- ◎ ボランティアガイド養成講座の開催については、観光協会と連携して事業を行うため、引き続き協議をしている。
- ◎ 市内に伝わる無形民俗文化財の保存継承に寄与した。
- ◎ 現地公開事業に補助金を支給し、文化財の公開普及に努めた。
- ◎ ふるさと納税の促進と専門機関への配布により市史・町史誌の活用を図った。
- ◎ 文化財調査年報（文化財だより）の発行により、文化財についての業務内容を周知することができた。
- ◎ 市内に存在する未指定の文化財の掘りおこしに努め、1 件の文化財指定を行った。
- ◎ 開発に伴う埋蔵文化財の協議・届出等への対応では、施行業者に周知が行き届き、文化財協議もスムーズに進めることができた。
- ◎ 年度途中で依頼された緊急発掘調査にも迅速に対応できた。
- ◎ 庄原市埋蔵文化財センターは、文化財調査や郷土学習支援事業の拠点施設として、機能することができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
指定文化財の草刈等の環境整備	普通	普通	継続
佐田谷・佐田峠墳墓群発掘調査報告書の発行	普通	普通	完了・終了
佐田谷・佐田峠墳墓群の国史跡指定に向けての調整	普通	高い	継続
比婆いざなみ街道物語の推進	普通	高い	継続
文化財ガイド養成講座の実施	普通	普通	継続
無形民俗文化財保存団体への支援	普通	高い	継続
市史・町史誌の活用促進	低い	普通	継続
文化財調査年報（文化財だより）の発行	普通	普通	継続
文化財指定への取り組み	普通	普通	継続
開発に伴う埋蔵文化財の協議・届出等への対応	普通	普通	継続
埋蔵文化財発掘調査資料の整理・保存	普通	普通	継続
庄原市埋蔵文化財センターの活用・充実	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 指定文化財の草刈等の環境整備では、管理者の高齢化が進み、管理が困難になってきている。
- 佐田谷・佐田峠墳墓群の国史跡指定に向けて、文化庁から追加指導もあり、引き続き文化庁・県教委と調整しながら申請事務を進める。
- ボランティアガイドについての窓口を一本化する必要がある、庄原DMOと協議・検討する。
- 無形民俗文化財保存団体構成員の高齢化により、若い世代の継承が必要である。
- 市史・町史誌の新たな販売ルートの確保等が課題となっている。
- 文化財調査について、文化財だよりの発行等により、今後も継続して周知を図る。
- 文化財の指定について、文化財保護審議会と連携して調査を実施する。
- 開発に伴う埋蔵文化財の協議・届出等への対応では、業務量が不定なので、計画が立て難い。
- 発掘調査の整理及び収蔵の効率化を図るため、今後は庄原市埋蔵文化財センターで資料整理を実施することとしているが、職員が常駐ではないので、日常管理が課題であり、貴重な文化財を管理する上でのセキュリティ強化を検討する。

③ 博物館・資料館の活用

【取り組み・実績】

- 博物館・資料館機能の充実
 - ・ 庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第2期）に基づく各種事業の推進
計画を基に事業実施を行うとともに、第2期計画の取り組みの進捗状況や効果を把握し、第3期計画につなげていくための中間評価を行った。（担当者会議3回開催）
 - ・ 比和自然科学博物館・地学分館の管理・運営
本年度は、高知県立牧野植物園の協力により、第80回特別展「植物学者牧野富太郎が登った吾妻山-吾妻山植物誌の完成を記念して-」（7/19～10/6、入館者：2,035人）を開催した。
比婆山植物調査は令和2年度を完了目標に継続実施した。
グリーンラリーを含む博物館公開講座を全10回（参加者合計：481人）を開催し、自然科学への興味や関心を喚起する啓発事業を実施した。
平成29年度から実施している宮島水族館との連携事業として磯の生き物に触れるイベント（9/1、参加者：51人）を行い、興味関心を引く取り組みを実施した。合わせて、当博物館出張講座として、宮島水族館において化石の学習及び簡易な発掘体験講座を行い、

県南部においても博物館の周知ができた。

10/28～11/8 県立広島大学への出張展示としてキャンパスメンバーズPR展を開催した。

地学分館オープンによる入館者の増員以降、最も多い入館者(3,980人)となった。

- 帝釈峡博物展示施設時悠館(帝釈峡まほろばの里含む)の管理・運営

【時悠館】

運営方針に基づく館運営を進め、ホームページ更新、携帯電話等通信環境の改善に努めるとともに、多様な主体との連携を進め、「帝釈湖水開き」や庄原商工会議所等が行う交通社会実験等へ参画した。

春・夏の企画展「知られざる比婆山信仰の世界」、秋・冬の企画展「庄原盆地 弥生王墓誕生」を実施し、記念講演会等の関連行事を積極的に開催した。

入館者は11月末で2,375人と大幅に増加

(H27:1,930人、H28:1,573人、H29:1,821人、H30:2,490人)。

【帝釈峡まほろばの里】

交流促進センターの施設管理に努め、オートキャンプ場の貸し出し業務に対応した。

指定管理の再開を含め、所管課との管理見直しにかかる協議が進んでいない。

- 庄原市歴史民俗資料館(火野葦平と母マン資料室・西城・総領収蔵学習室含む)の管理・運営

収蔵資料の整理

館内照明のLED化(予算の範囲内で年次的実施)

寄託資料等の確認・整理

ニュー・ナショナル独案内3冊受贈

庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画(第2期)に基づいた事業実施に努めた。

アフガニスタン復興に懸けた「中村哲医師」(火野葦平の甥)についての企画展を図書館において実施 12/5～1/31

ペシャワール会の活動写真及び資料展(「緑の大地計画」「医療事業」)を図書館において開催 2/22～3/10

- 倉田百三文学館の管理・運営

見学・郷土学習研修の受け入れ

倉田百三関連書籍受贈

倉田百三の記念碑周辺の整備

「倉田百三講演会」講師 県立広島大学 馬川 勉教授 令和2年1月26日開催。(参加者52人)

- 口和郷土資料館の管理・運営

所蔵品の常設展示、映画会、真空管アンプやふれあいコンサート等のイベントを実施
資料の収集・保管・維持修繕・各学校等の講師を積極的に行いPRや集客に努めた。

本館、トイレ棟の樋の全面改修他外観、床、階段等の改修を行った。

郷土資料館改修工事 6,127千円

郷土資料館シロアリ駆除 1,262千円

- 博物館、資料館の連携

各博物館・資料館の収蔵資料の相互協力や、他館への貸し出しを行った。特に、平成30年度にオープンした庄原市埋蔵文化財センターの収蔵資料を時悠館の特別展に合わせて貸し出しを行った。

○ 連携・啓発事業の展開

- ・ 収蔵資料の出前展示や資料貸出等の活用と整理
例年の丘陵公園たたらイベントに合わせて、西城収蔵学習室の資料を貸し出して活用を図った。
また、広島県立歴史博物館や広島県立歴史民俗資料館への展示貸出等を実施した。
- ・ 学校と連携した体験学習や出前授業の充実
引き続き、バス運行の支援を中心とした学校等の連携事業を実施した。
高自治振興センター放課後子供教室へのバス貸出や永末児童クラブへの体験学習を実施した。(小学校9校、放課後子供教室及び放課後児童クラブ計9回)
時悠館では前年度から継続して東城小学校6年生(52名)の総合的学習の時間と連携し共同研究を行った。誘導看板・オリジナル曲・新キャラクター・各種体験教材・ポスター等の作成を行い、地域住民や観光協会の協力のもと「時悠館アピール大作戦」(2～6月)として施設内外へ展示した。
- ・ 地域や観光と連携した講座の推進と支援
観光協会や市内の主な観光施設との連携を図りながら事業展開を図っている。
帝釈観光協会やウイル西城での体験活動及び展示の協力を実施した。

【成果・効果】

- ◎ 庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画(第2期)の取り組みが充実してきた。
- ◎ 比和自然科学博物館は、県内唯一の自然系博物館として、安定的な入館者を得ており、学習の場(知的遊園地)としての役割を担うことができた。また、宮島水族館や牧野植物園との連携により、県北にとどまらない事業展開を行った。特に、牧野植物園との連携では、吾妻山植物誌が完売でき、自然科学に関する研究成果の一部を社会に還元できた。
- ◎ 帝釈峡博物展示施設時悠館は、運営方針にもとづく館運営を進め、入館者数の大幅増加につなげることに成功し、在り方計画に掲げた目標の達成に一定の見通しが得られた。また、昨年度に引き続き、従来停滞していた「多様な主体との連携」を進め、地域資源をともに掘り起こして発信することができ、地域づくりに貢献できた。
- ◎ 庄原市歴史民俗資料館は、市内各施設のガイダンス機能を持たせるため、展示施設の改修を図った。
- ◎ 倉田百三文学館は、全国的にも著名な文豪、倉田百三の展示施設として発信し、作成したパンフレットを利用し普及に努めた。
- ◎ 口和郷土資料館は、市内学校等への周知、ホームページやフェイスブックの活用、特別展等のメディア、マスコミを通じての博物館・資料館をPRすることで、安定した入館者数がある。また、小学校の社会科授業の「見る・触れる・動く」体験学習の場でもあり、児童の意欲や関心が大いに向上した。
- ◎ 各博物館・資料館の特別展等において資料の相互協力を図るなど、連携体制が図られつつある。
- ◎ 地域学習の一環としてバス利用や出前授業等一定の効果があつた。
- ◎ 学校と連携した体験学習や出前授業では、東城小学校と連携した博物館事業の取り組みがあり成果があつた。
- ◎ 国営備北丘陵公園との講演会の実施に伴い、西城のたたら資料の出張展示等を実施し、地域や観光施設と連携して取り組むことができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画（第2期）に基づく各種事業の推進	普通	普通	継続
比和自然科学博物館・地学分館の管理・運営	高い	普通	継続
帝釈峡博物展示施設時悠館（帝釈峡まほろばの里含む）の管理・運営	普通	普通	継続
庄原市歴史民俗資料館（火野葦平と母マン資料室、西城・総領収蔵学習室含む）の管理・運営	普通	普通	継続
倉田百三文学館の管理・運営	普通	普通	継続
口和郷土資料館の管理・運営	普通	普通	継続
博物館、資料館の連携	普通	普通	継続
収蔵資料の出前展示や資料貸出等の活用と整理	普通	普通	継続
学校と連携した体験学習や出前授業の充実	普通	普通	継続
地域や観光と連携した講座の推進と支援	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 庄原市博物館・資料館の新たな在り方基本計画に基づき、各博物館資料館の事業と連携しながら事業実施を図る。また、第2期計画の最終評価を進めると共に、第3期計画策定に早急に着手する必要がある。
- 周知用チラシの作成等により、冬季の入館者の減少に対する対応を検討する。
- 各館ともに老朽化が進んでおり、今後、施設全体の修繕箇所について精査し、計画的に修繕を行う。
- まほろばの里の管理について、指定管理の再開を含めた今後のあり方を所管課と早急に協議する必要がある。
- 各博物館資料館においては、新型コロナウイルス感染症への対策を講じた開館、事業実施を行う必要がある。

（3）スポーツの推進

① スポーツ活動の推進

【取り組み・実績】

- 地域スポーツの推進
 - ・ 地域のスポーツイベントへの支援
各種スポーツイベントを実施した。
 - 第29回庄原市スポーツフェスティバル
総合開会式 7/7（金藤理絵氏による選手激励）
6/16～7/28 各種競技実施（市内各スポーツ施設）
実施種目 21種目、のべ参加者1,973人
*庄原市体育協会委託事業（委託料1,130千円）
 - 第24回かさべるで杯親善ゲートボール大会 7/21 15チーム 参加者62名
 - 第69回四県四郡市総合体育大会 8/11（鳥取県日野郡）
庄原市総合順位3位 庄原市からは、10種目172名が出場 全体参加者779名
 - 第20回ひろしまクロスカントリー大会 8/24（道後山高原クロカンパーク）
参加申込者1,813人
 - 第56回東城地区総合体育大会 10/13 6種目670人

第14回庄原市民健康づくりグラウンド・ゴルフ大会 10/19 (田総の里スポーツ公園)

30 チーム 参加者 150 人

第68回庄原市スター式駅伝 12/1 (庄原市上野総合公園陸上競技場発着)

62 チーム参加

・ スポーツ推進委員活動の推進

スポーツ推進委員は、各地域における活動のほか、各種研修会等へ参加し、各自が資質の向上に努めた。 任期：H31. 4. 1～R 3. 3. 31 委員数 44 人

スポーツ安全・事故防止講習会 6/21 (庄原市総合体育館) 2 人

中国地区スポーツ推進委員研修会 6/22. 23 (岡山県津山市) 8 人

広島県スポーツ推進委員研究大会 7/13. 14 (山県郡北広島町) 10 人

広島県新任スポーツ推進委員研修会 7/21 (広島市) 1 人

第1回庄原市障害者スポーツ体験会 7/25 (庄原市ふれあいセンター) 6 人

備北地区スポーツ推進委員研修会 7/31 (三次市) 12 人

第1回障害者スポーツ研修会 9/26 (庄原市ふれあいセンター) 13 人

広島県総合マネジメント研修会 9/29 (豊田郡大崎上島町) 6 人

第2回庄原市障害者スポーツ体験会 10/31 (上野総合公園陸上競技場) 8 人

全国スポーツ推進委員研究協議会 11/14. 15 (三重県津市) 7 人

中国四国ブロック障がい者スポーツ指導者研修会 11/23. 24 (岡山県倉敷市) 2 人

広島県女性スポーツ推進委員研修会 11/30 (福山市) 3 人

初級障がい者スポーツ指導員養成講習会 1/11～13 (東広島市) 参加なし

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2020 2/7 (島根県松江市) 3 人

第2回障害者スポーツ研修会 2/20 (庄原市ふれあいセンター) 12 人

障害者スポーツ支援ボランティア講習会 3/1、3/5 (東広島市) 中止

障害者フライングディスク指導者養成講習会 3/7～8 (東広島市) 中止

ファミリー健康体力向上事業 体力測定 3/14 (庄原市総合体育館) 中止

第3回障害者スポーツ体験会及び研修会 3/15 (庄原市総合体育館) 中止

広島県障がい者スポーツ指導者研修会 3/20 (東広島市) 中止

※3月に開催が予定されていた研修会等については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

・ 市民スポーツ教室の推進

健康づくりや体力づくり、各種競技の技術力の向上を目的に市民が気軽に参加できるスポーツ機会の提供を行う事業として、庄原市総合体育館の指定管理者である庄原市総合サービス㈱に委託し、継続的に教室を展開した。(テニス教室など、9教室を開催した。)

・ ニュースポーツ、軽スポーツの普及

気軽にスポーツに親しむことができる機会を提供し、市民相互の交流を深めるとともに健康づくりを図り、生涯スポーツ社会の普及・定着を目的として、総合型地域スポーツクラブ「庄原さくらスポーツクラブ」への委託事業として実施した。(6回 参加者 101 人)

ラージボール卓球、ミニテニスなど7教室及びトレーニングアドバイスなど行った。

地域からの要望により、出前講座を行った。(14回)

- スポーツ団体の育成・支援
 - ・ 庄原市体育協会の活動支援
 - 各主催行事に連携・協力した。
 - 補助金：4,590千円（運営費）
 - 第43回県北陸上庄原大会兼第116回庄原市中学校陸上競技大会 5/25
 - 第35回全国小学生陸上競技交流大会庄原市予選会 5/25
 - 第29回庄原市スポーツフェスティバル【庄原市より委託事業】 6/16～7/28
 - 第69回四県四郡市総合体育大会 8/11
 - 第44回広島県民体育大会庄原予選大会 8/31
 - 第44回広島県民体育大会参加 10/6
 - 第14回庄原市健康づくりグラウンド・ゴルフ大会 10/19
 - 第68回庄原市スター式駅伝大会 12/1
- 庄原市スポーツ少年団の活動支援
 - ・ 庄原市スポーツ少年団の活動支援
 - 各主催行事に連携・協力した。
 - 補助金：4,770千円（運営費）
 - 各支部・単位団への運営費補助
 - 第44回広島県民体育大会（スポーツ少年団の部）
 - 柔道 10/20、空手道 11/4、剣道 11/10、卓球 11/9
 - 第48回広島県スポーツ少年団バレーボール交歓大会
 - 小学生の部 11/8、12/4、中学生の部 1/19、22
 - 広島県スポーツ少年団認定員養成講習会
 - Iコース 6/29、30、IIコース 8/24、25、IIIコース 10/19、20
 - 第30回さとやま駅伝大会 3/1（中止）
 - 令和元年度広島県スポーツ少年団指導者研修大会 3/15（中止）
 - ※3月開催の行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
 - ・ スポーツ指導者の育成支援
 - 各スポーツ団体などの有資格者と連携しながら、指導者の確保に努めた。
- 総合型地域スポーツクラブの展開
 - ・ 総合型地域スポーツクラブ「庄原さくらスポーツクラブ」・「節分草スポーツクラブ」支援
 - 庄原さくらスポーツクラブに90千円、総領節分草スポーツクラブに45千円を補助し、ニュースポーツの普及、会議・研修会への情報提供を行っている。会員拡大に向け、回覧文書の作成も行った。
 - ・ 総合型地域スポーツクラブの体験会開催や設立に向けた支援
 - 中学校区単位でのクラブ設立が望ましいとされていることから、その他の地域においても、クラブの設立が行えるよう支援を行った。
- 競技力向上・ジュニアスポーツの推進
 - ・ レベルアップスポーツ教室の充実（水泳・競泳・陸上競技・バレーボール・スキー・バスケットボール・卓球）
 - 各レベルアップ教室を開催した。
 - ①陸上 6/8 22人 ②水泳指導者派遣 6/17～7/18 16校 410人 ③競泳 初級（6/19.26）のべ32人 中級（7/3.10）9人 上級（7/17.24）10人 計6回

- ④バスケットボール 7/20 47人 ⑤バレーボール 10/26 61人 ⑥卓球 12/8 66人 ⑦スキー 1/26 (中止：雪不足)
- ・ レベルアップ指導者講習会の実施(水泳・陸上)
指導者講習会を行い、指導内容の充実を図った。
①陸上指導者講習会 5/21 16人 ②水泳指導者講習会 6/12 16人
(市内小学校教諭対象)
- ・ アスリート育成事業(陸上競技)
開校式4/11 令和元年度：第3学年～第6学年：30回(平成30年度：35回)
12～2月は体育館で練習 登録者数：3年12人、4年19人、5年17人、6年17人
計65人登録
アスリート教室体験会の開催 3/14(中止)
- ・ 文化・スポーツ全国大会等出場者への支援
壮行式 夏季：7/16 秋季：9/30 激励式 11/19 のべ62人 うち団体1
全国大会等出場者については、定期的に壮行式を行い、必要に応じて教育長による激励式を実施している。
- ・ 庄原市少年少女スポーツ振興会との連携による各種記録会等開催支援
子供たちの運動に親しむ資質や能力を育成するため、レベルアップスポーツ教室事業に
参画・後援をいただき連携を図った。
庄原市レベルアップスポーツ教室への後援
庄原市少年少女陸上記録会・水泳記録会への協力
- 障害者スポーツへの支援
 - ・ 各種施設、設備等の環境整備
障害者スポーツを行った。また、障害者スポーツの充実に向けて、関係団体等の意見交換を行った
 - ・ 指導者、ボランティアスタッフの育成及び活動支援
各種スポーツイベントを開催した。
【再掲】第1回庄原市障害者スポーツ体験会 7/25(庄原市ふれあいセンター)6人
【再掲】第1回庄原市障害者スポーツ研修会 9/26(庄原市ふれあいセンター)13人
【再掲】第2回庄原市障害者スポーツ体験会 10/31(上野総合公園陸上競技場)8人
【再掲】中国四国ブロック障がい者スポーツ指導者研修会 11/23.24(岡山県倉敷市)2人
【再掲】初級障がい者スポーツ指導員養成講習会 1/11～13(東広島市)参加者なし
【再掲】第2回庄原市障害者スポーツ研修会 2/20(庄原市ふれあいセンター)12人
【再掲】障害者フライングディスク指導者養成講習会 3/7～8(東広島市)中止
【再掲】第3回庄原市障害者スポーツ体験会及び研修会 3/15(庄原市総合体育館)中止
【再掲】広島県障がい者スポーツ指導者研修会 3/20(東広島市)中止
※3月開催予定の研修会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。
- 庄原市スポーツ大使の活用
 - ・ オリンピック金メダリスト「金藤理絵」氏による、市内小学校での水泳教室等の実施(レベルアップ水泳教室の一部)
庄原市スポーツ大使「金藤理絵」氏を市内小学校の水泳教室に講師として招へいし、小学生との交流を推進した。また、レベルアップ水泳教室や市内の各種スポーツイベントにより、市民のスポーツ参加意識の醸成並びに技術の向上を図った。

水泳教室派遣事業 7/4 東小 7/5 八幡小 7/8 山内小・高小 7/9 西城小・美古登小

レベルアップ水泳教室 7/6 (庄原市西城温水プール「水夢」)

スポーツフェスティバル総合開会式 7/7 (庄原市ふれあいセンター コパリホール)

○ その他

- ・ 東京オリンピック・パラリンピック機運醸成のための関連事業実施

東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、機運が高まってきていたが、1年延期された。

【成果・効果】

- ◎ 市内のスポーツ活動の推進については、庄原市体育協会や競技団体等と連携・協力して実施し、市内を拠点とした教室やイベントの開催など、身近な地域で気軽にスポーツを楽しむ環境を提供することができた。
- ◎ 各地域のスポーツ推進委員は、積極的な研修への参加や地域スポーツ活動に参画し、地域においての継続的な活動を支援している。
- ◎ 市民スポーツ教室では、健康づくり・体力づくりを目的とした教室に人気があり、市民の健康意識の高まりにより、継続的な活動へとつながっている。
- ◎ 市の主催行事は、スポーツ団体と連携・協力を行っている。各団体の指導者のうち、約半数が有資格者である。
- ◎ 総合型地域スポーツクラブによるニュースポーツ・軽スポーツの普及活動は、気軽にスポーツに参加できるとして好評である。
- ◎ レベルアップスポーツ教室では、水泳・競泳・陸上競技・バレーボール・バスケットボール・卓球の教室を開催し、育成を図ることができた。特に、オリンピック金メダリスト「金藤理絵」氏による市内小学校での水泳教室では、小学生との交流機会となり、直接指導を受けることで、児童の自信や技術の向上につながった。また、指導者講習会を実施し、指導者の養成、資質の向上を図った。
- ◎ アスリート育成事業については、定期的な活動として定着してきている。
(平成27年度から令和元年度まで5年間)
- ◎ 全国大会の出場者に関する情報を多方面からの情報も得られるようになってきた。
- ◎ 障害者スポーツの活動支援に向けた研修と、実際の活動への協力・支援を進めた。
- ◎ 行政管理課と連携し、聖火リレー及び関連イベントの企画を行った。

具 体 的 施 策	有効性	必要性	方向性
地域のスポーツイベントへの支援	普通	普通	継続
スポーツ推進委員活動の推進	普通	高い	継続
市民スポーツ教室の推進	普通	普通	継続
ニュースポーツ、軽スポーツの普及	普通	普通	継続
庄原市体育協会の活動支援	普通	普通	継続
庄原市スポーツ少年団の活動支援	普通	普通	継続
スポーツ指導者の育成支援	普通	普通	継続
総合型地域スポーツクラブ「庄原さくらスポーツクラブ」・「節分草スポーツクラブ」支援	普通	普通	継続
総合型地域スポーツクラブの体験会開催や設立に向けた支援	低い	普通	継続
レベルアップスポーツ教室の充実（水泳・競泳・陸上競技・バレーボール・スキー・バスケットボール・卓球）	普通	普通	継続
レベルアップ指導者講習会の実施（水泳・陸上）	普通	普通	継続
アスリート育成事業（陸上競技）	普通	普通	継続
文化・スポーツ全国大会等出場者への支援	普通	普通	継続
庄原市少年少女スポーツ振興会との連携による各種記録会等開催支援	普通	普通	継続
各種施設、設備等の環境整備	普通	普通	継続
指導者、ボランティアスタッフの育成及び活動支援	普通	普通	継続
オリンピック金メダリスト「金藤理絵」氏による、市内小学校での水泳教室等の実施（レベルアップ水泳教室の一部）	高い	高い	継続
東京オリンピック・パラリンピック機運醸成のための関連事業実施	普通	普通	継続

【課題・対応】

- スポーツフェスティバルなど複数種目を実施する大会については、種目内容や種目の増減等を検討していく必要がある。また市民のニーズに応じたスポーツ教室開催には、他の行事等との日程の重複等が起こらないよう、各団体と横断的な連携を図る必要がある。
- 市が補助金を交付し、長年継続している大会については、その効果を検証する。またスポーツ少年団本部・各支部へ補助金の配分基準・各団の報告の徹底等、引き続き適切な処理・対応の指導を行う必要がある。
- スポーツ推進委員からの毎年度活動状況の報告を参考に、委員の各地域における位置づけや活動の方向性を明確にする。
- 各スポーツ団体では、指導者不足や高齢化が課題となっている。
- 既存のスポーツクラブのPRを行うなど、総合型地域スポーツクラブを周知することで、チームの知名度を向上させるとともに、新規会員の獲得を図る必要がある。クラブがない地域においても、総合型地域スポーツクラブの体験会等を行うことで新規設立につなげる必要がある。
- アスリート教室の発展的な自主運営への移行の検討を行っていく。
- 文化・スポーツ全国大会等出場者への支援を行うため、広い分野からの情報収集に努める。
- 障害者スポーツに必要な備品等の計画的に整備や、利用者が使いやすい施設の整備についても検討していく必要がある。さらに継続的かつ計画的に障害者スポーツ指導員やボランティアなどの人材育成を図る必要がある。
- オリンピック金メダリスト「金藤 理絵」氏による市内小学校での水泳教室は、令和3年度がオリンピックの開催年であるため、「金藤 理絵」氏とのスケジュール調整を早期に行うことが困難であることが予想されるため、実施の有無・日程等の調整は、いちばんづくり課で行う。（実施に向けた詳細調整については、生涯学習課で行う。）
- オリンピックの開催延期となったが、引き続き気運の醸成を行う必要がある。

② スポーツ環境の充実

【取り組み・実績】

○ 社会体育施設の利用促進

- ・ 体育館、総合運動公園、屋内外体育施設等の管理・運営（指定管理・直営管理）及び利用促進

庄原市総合体育館をはじめ、施設について指定管理、あるいは直営（管理委託を含む）にて管理を行った。

【指定管理施設】

庄原市総合体育館、庄原市テニスコート、庄原市多目的広場、庄原市水泳プール、庄原市運動広場、庄原市スポーツ広場：庄原市総合サービス㈱ 53,349千円

口和スポーツセンター：庄原市口和スポーツセンター管理組合 268千円

西城総合運動公園（道後山高原クロカンパーク）：(有)道後山高原サービス 23,222千円

【直営管理】（各種スポーツ施設・学校体育施設開放事業を含む）

比和総合運動公園、比和体育館 1,798千円

- ・ 社会体育施設維持整備方針に基づく各施設の計画的な維持修繕、改修

市内には、多くの施設が存在し、いずれも老朽化が進行している。各施設の維持管理について、一定の方針を定め、継続的・計画的に修繕や更新を実施した。（100千円以上掲載）

【修繕・工事】

庄原市テニスコート陥没補修工事 432千円

高小学校グラウンド照明修繕 451千円

東小学校グラウンド照明修繕 581千円

庄原市総合体育館観客席手すり廻り他修繕工事 314千円

庄原市総合体育館自家発電設備修繕工事 165千円

庄原市総合体育館自火報受信機緊急取替工事 678千円

庄原市スポーツ広場グラウンド照明設備改修工事（5.6号柱） 4,201千円

庄原市総合体育館照明設備改修工事 34,560千円

高野水泳プール改築工事 【繰越】 65,936千円

比和総合運動公園体育館天窓付近雨漏り修繕工事 181千円

里山総領体育館照明器具改修工事 5,454千円

里山総領体育館鉄棒固定金具設置工事 237千円

西城温水プールろ過ポンプ修繕工事 160千円

西城温水プール温水チラー更新修繕工事 4,617千円

【委託】

高野水泳プール改築工事監理業務委託 【繰越】 1,806千円

【備品購入】

庄原総合体育館防球ネット 151千円

庄原市総合体育館トレーニング室ワイドベンチ購入 175千円

高野水泳プール温水シャワー使用に係るガスメーター設置 100千円

- ・ 西城温水プール「水夢」の利用促進

記録会や教室などを定期的に開催し、定着を図った。

水夢フェスティバル水泳記録会等

庄原市少年少女水泳記録会（7/26） 庄原市内19小学校 参加選手156人 延べ286人

水夢フェスティバル水泳大会（10/6） 314人

各種教室の実施状況

ベブースイミング教室（6～9月 16回実施 延べ191組 382人参加）

幼児スイミング教室（5～6月、9～10月 17回実施 延べ134人参加）

ボディシェイプ教室（5～12月 13回実施 延べ114人参加）

親子体操教室（7～8月 5回実施 延べ8組 56人参加）

トレーニング室、スタジオ等の利用促進

利用状況

トレーニング室 1,777人（前年度対比 99%）

スタジオ 2,156人（前年度対比 95%）

休場期間の変更

利用実態に応じ、11月1日～1月末日から12月1日～2月末日へ変更した。

○ 学校体育施設の活用

- ・ 市内小中学校の体育施設開放事業

市内の小中学校の屋内体育施設、屋外体育施設を学校運営に支障のない範囲で市民に供するため開放事業を実施した。

- ・ 県立学校体育施設開放事業

市内の県立学校体育施設を学校運営に支障のない範囲で市民に供するため、各学校と利用契約を締結し、開放事業を実施。

広島県立庄原実業高等学校・広島県立庄原特別支援学校・広島県立東城高等学校

○ 学校・家庭・地域のネットワークづくり

- ・ 庄原市スポーツ少年団、自治振興区及び社会教育関係団体相互の連携による子供たちのスポーツ参加促進への取り組み

放課後子供教室ニュースポーツ体験会 バッジー、シャフルボード、スポーツ吹矢

7/25 総領自治振興センター 26人参加、8/27 総領自治振興センター 30人参加

主催：総領自治振興区・庄原市スポーツ推進委員総領支部

- ・ 総合型地域スポーツクラブ等による地域全体を巻き込んだスポーツ活動への取り組み支援
ニュースポーツ講習会を開催し、シャフルボード、ボッチャ、スポーツ吹矢を実施した。

また、三次高校体操部による体操の演技を披露いただいた。10/6 里山総領体育館 40人参加

主催：総領節分草スポーツクラブ・庄原市スポーツ推進委員総領支部

【成果・効果】

- ◎ 指定管理施設については、指定管理者により適正な管理運営が行われ、自主運営に取り組むなどにより収益や利用者の拡大に貢献している。直営施設についても、定期的な点検や確認を行い、必要に応じて修繕を行う等適正に管理されている。
- ◎ 庄原市西城温水プールは、チラーの更新、プール開場期間の変更により充実したスポーツ施設として利用促進等を行い、利用者の増大に取り組んでいる。
- ◎ 市立小中学校開放事業は、地域に密着したスポーツ活動拠点施設として位置付けており、利用者も多い。
- ◎ 自治振興区が行っている放課後子供教室の児童がニュースポーツの体験ができた。また、総合型地域スポーツクラブによるスポーツ活動への取り組みを支援することで、地域、世代間の交流を図ることができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
体育館、総合運動公園、屋内外体育施設等の管理・運営（指定管理直営管理）及び利用促進	普通	普通	継続
社会体育施設維持整備方針に基づく各施設の計画的な維持修繕、改修	普通	普通	継続
西城温水プール「水夢」の利用促進	普通	普通	継続
市内小中学校の体育施設開放事業	普通	普通	継続
県立学校体育施設開放事業	低い	低い	縮小・休止
庄原市スポーツ少年団、自治振興区及び社会教育関係団体相互の連携による子供たちのスポーツ参加促進への取り組み	普通	普通	継続
総合型地域スポーツクラブ等による地域全体を巻き込んだスポーツ活動への取り組み支援	高い	普通	継続

【課題・対応】

- 各施設の管理運営方法について、引き続き施設の特徴や現状、利用者増進の取り組み等を考慮し、管理運営等の方向性を含め、今後のあり方を検討する必要がある。各施設とも老朽化が進行していることから、「庄原市社会体育施設維持整備方針」の見直しを行い、計画的に修繕等を行っていく必要がある。
- 西城温水プール「水夢」は、休場期間を11月1日～1月末を12月1日～2月末へ変更を行うことで、利用者の状況の改善、維持管理経費削減等を図る。
- 県立学校体育施設開放事業では、実績がほとんどない状況であり、地域住民に円滑に利用していただけるよう、各校と協議を行っていく。
- 子供達のスポーツ参加促進への取り組みでは、庄原市スポーツ少年団や自治振興区等と連携し、初心者でも気軽に参加でき、子供達が楽しめる体験会を企画する必要がある。

3 家庭・地域の教育力

(1) 教育風土の醸成

① 地域社会に貢献できる人材の育成

【取り組み・実績】

- 地域や産業界等と連携した教育内容の充実
 - ・ 保護者や地域等の声を生かした教育活動の推進
 - 各学校の教育内容に係る取り組みについて自己評価を行い、その後、学校関係者評価委員による評価を実施
 - 保護者や地域の意見を反映し、学校としての説明責任を果すため、各学校において、学校評議員による会議を実施。

【成果・効果】

- ◎ 全校で学校関係者評価委員会や学校評議員会を開催し、地域の意見や評価を生かした教育活動を推進している。
- ◎ 令和2年度からの中学校2校への学校運営協議会設置に向け、協議・調整が進んだ。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
保護者や地域等の声を生かした教育活動の推進	普通	高い	継続

【課題・対応】

- 保護者や地域、産業界の協力を得ながら、子供を見守る学校の体制づくりのために、より一層、学校から情報発信するとともに、日常の教育活動に対する理解を図る。
- 学校運営協議会について、学校と連携しながら具体的な活動状況の把握に努めるとともに、協議会の在り方や効果的な運営についての研究を行う。

② 地域理解を深める教育活動の推進

【取り組み・実績】

- 学校や地域の教育活動等の公開の充実
 - ・ 「庄原市教育フォーラム」等の開催による積極的な情報発信
 - 保護者、学校関係者及び市民等を参加対象に、「グローバル化」をテーマに「庄原市教育フォーラム（10/20）」を開催し、市内小中学校の取り組みについて周知
 - 小学生による外国語科の公開授業、中学生による外国語科の取り組み発表、ルース・マリー・ジャーマンさんによる講演により、市民でグローバル化について考える機会とした。
 - 教育フォーラムの開催にあたり、市ホームページ、フェイスブック及び広報しようばらに内容を掲載するとともに、住民告知放送による音声案内、市内10箇所縦看板の設置、市内全域にチラシを配布し啓発を推進
 - 庄原市教育フォーラム参加者：約500名
 - 中学校合唱コンクールの開催にあたり、広報しようばら及び住民告知放送にて案内し、周知した。
 - 中学校合唱コンクール参加者：中学生約400名 来場者約250名
 - ・ 市ホームページ等の活用による市民の教育活動への参加促進

市ホームページの教育長メッセージを毎月1日に更新し、教育への関心を啓発
 市主催研修会や行事を市ホームページに掲載し、教育活動への理解を促進
 市ホームページに「学校へ行こう週間」の概要、目的及び実施期間等の内容及び各学校
 の取り組みを掲載し啓発を推進
 各学校の公開研究会の日程及び内容等について市のホームページに掲載

【成果・効果】

- ◎ 教育フォーラムの参加者からは、小中学生の取り組みや姿を評価する声、講演からこれからのグローバル化社会に向けた心構えがよく分かった等の声を多数いただいた。
- ◎ 合唱コンクールの参加者からは、生徒の合唱の姿に肯定的な評価を多数いただいた。
- ◎ 市主催研修や行事などの市ホームページへの掲載はほぼできている。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
「庄原市教育フォーラム」等の開催による積極的な情報発信	高い	高い	継続
市ホームページ等の活用による市民の教育活動への参加促進	普通	高い	継続

【課題・対応】

- 教育フォーラムの内容や市民等への啓発の方法・時期について、早めに検討する。
- 市ホームページに教育長のメッセージや主催研修などの様子を掲載していることを周知し、閲覧者を増やす。

③ 「しょうばら教育の日」の創設に向けた取り組み

【取り組み・実績】

- 市民全体で子供を育てる風土の醸成
 - ・ 学校・家庭・地域が一緒になった教育活動の推進
庄原市教育フォーラムによる市民への教育活動の理解・啓発を行った。
 - ・ 関係者との協議
制定に向けた内容の検討、手続き・手順などについて、庁内関係部署との協議・調整が進んでいない。

【成果・効果】

- ◎ 庄原市教育フォーラムは、市民で教育を考える機会となった。
- ◎ 法制化するための具体的な内容（趣旨・取り組み内容・対象・範囲）などをまとめる必要がある。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
学校・家庭・地域が一緒になった教育活動の推進	高い	普通	継続
関係者との協議	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 庄原市PTA連合会との共催で行うことで参加者について配慮いただいているが、小中学校の発表が終わると帰られる保護者もいた。引き続き連携を進めていく。
- 教育委員会各課と市長部局などが連携し、「しょうばら教育の日」創設に向けた、具体的な内容などの協議・調整が必要である。

(2) 家庭・地域と一緒に取り組む教育活動

① 家庭の教育力の向上

【取り組み・実績】

○ 子育てに関する学習機会や情報の提供

- ・ 「親の力をまなびあう学習プログラム」を活用した参加型講座の開催
講座の実施（9回）

7/7 児童福祉課との連携による子ども未来広場オープン行事での講座開催 参加者 10人

8/10 庄原市PTA連合会 参加者 30人 9/19、26 11/7 西城紫水高校
(参加者延べ73人)

9/21 東小学校 参加者 76人 10/24 田森自治振興区 参加者 14人

1/22 山内小学校 参加者 38人 1/29 東城町保小中高連絡会 参加者 35人
研修等（県主催研修3回、12/19 市主催ファシリテーター連絡会議）

- ・ 家庭教育に関する講座や講演会の実施

住民自らが地域課題の解決に向けた活動に結びつけていく力を醸成するため、家庭・地域の教育力を高める事業を、自治振興センターを中心に展開。

年間開催 26事業 参加者 613人

【成果・効果】

- ◎ 県教育委員会が開発した「親の力をまなびあう学習プログラム」を活用した学習会の実施依頼が増加しており、家庭教育支援に取り組むことができた。講習を受けた市民によるプログラムのファシリテーターに協力いただき事業実施をすることができた。さらに市教育委員会が取り組んでいる読書活動の推進をテーマとしたオリジナルの教材を作ることができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
「親の力をまなびあう学習プログラム」を活用した参加型講座の開催	普通	普通	継続
家庭教育に関する講座や講演会の実施	普通	高い	継続

【課題・対応】

- 実際に講座を運営できるファシリテーターが少ないため、有資格者への研修会や連絡会議への参加を促し、事業に参画していただける人材の確保が必要である。

② 地域の教育力の向上

【取り組み・実績】

○ 地域社会全体で次代を担う健全な子供を育てる取り組みの推進

- ・ 地域の教育力等の地域課題に対応した学習活動の推進

住民自らが地域課題の解決に向けた活動に結びつけていく力を醸成するため、子供から高齢者まで幅広い世代の住民を巻き込んだ事業を、自治振興センターを中心に展開。

年間開催 30事業 参加者 1,536人

- ・ 学校・家庭・地域等の連携による世代間交流事業や放課後子供教室の実施

地域の実情に合わせ、次の方法により9教室を開設し運営。

利用人数が放課後児童クラブの補完として安全な居場所を確保するため、自治振興区に委託し、「放課後子供教室」を開設。(峰田・川北・高・山内・八幡・栗田・総領)

下校時間が早い木曜日に、安全な居場所を確保するため、「放課後子供教室」を開設。(比和)

体験活動としての教室を開設(庄原)

- ・ 保護者や地域住民が学校支援・運営に参画できる仕組みの検討
国や県、他市町の動向などの情報収集に努め、コミュニティ・スクール制度の導入について検討し、令和2年度から中学校2校に導入することとした。
- ・ 地域住民による学習支援「地域未来塾」の開設
地域の要望に基づき、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない小中学生を対象に、地域住民による学習支援を実施した。自治振興区へ運営を委託することにより5教室(栗田・八幡・上高・比和・総領) 11クラス開設
- ・ 「読書」をキーワードとした家庭教育支援事業の推進
- ・ 「読書」をキーワードとした家庭教育支援事業の推進読書ボランティア、自治振興区、市内書店や学校図書等による家庭教育支援チームの活動支援
読書ボランティア、自治振興区、市内書店や学校図書等による家庭教育支援チームの活動支援に向けた検討を行った。また支援チームと市立図書館の連携による「図書館まつり」を開催し、読書活動の推進と家庭教育の支援につながる活動として実施した。
家庭教育支援チーム会議の開催：6/26、7/30、10/23、2/25
図書館まつりの開催：5/11、9/14
支援チームメンバーによるおはなし会で活用するための絵本を購入した。

【成果・効果】

- ◎ 各自治振興区等で地域課題を見つめ直し、対象者が参加しやすい内容で企画、実施することができ、地域の伝統・文化・生活等に関する事業を通じ、身近な地域住民による各地域全体で子供を育てる機運が醸成された。
- ◎ 学校運営協議会設置に向け、国や県、他市町の動向を踏まえながら取り組みを進めることができた。
- ◎ 地域未来塾事業では、子供たちの学習習慣の確立と基礎学力の定着に向け、地域住民の協力のもと開設することができ、教育力向上につながった。
- ◎ 読書ボランティアによる読み聞かせにより、身近な地域住民による読書活動の推進が行われ、図書館まつり企画・実施に協力いただくなど、地域の読書ボランティア及び市立図書館の連携の場となり、子供同士や親子での参加により、家庭での読書活動につながる機会を作ることができた。

具体的施策	有効性	必要性	方向性
地域の教育力等の地域課題に対応した学習活動の推進	普通	高い	継続
学校・家庭・地域等の連携による世代間交流事業や放課後子供教室の実施	普通	高い	継続
保護者や地域住民が学校支援・運営に参画できる仕組みの検討	普通	高い	継続
地域住民による学習支援「地域未来塾」の開設	普通	普通	拡大継続
「読書」をキーワードとした家庭教育支援事業の推進 読書ボランティア、自治振興区、市内書店や学校図書等による家庭教育支援チームの活動支援	普通	普通	継続

【課題・対応】

- 放課後子供教室事業では、自治振興区による放課後児童クラブの利用児童も参加できる体験活動等の充実を図るほか、学校の適正配置後の運営体制についての情報収集と開設に向けた整備を行う必要がある。
- 学校運営協議会を設置した中学校2校で研究を深め、今後の展開を検討する。
- 地域未来塾について、各自治振興区内の整備希望を確認し、必要な地域では開設に向けた協議を行う。
- 家庭教育支援チームでは、今後の事業内容、実施手法、頻度、チームのあり方等、チームメンバーと共に検討が必要である。

Ⅲ 教育委員会委員の活動状況

1 庄原市教育委員会（令和元年5月1日現在）

役職名	氏名	任期
教育長	牧原 明人	平成30年4月1日～令和3年3月31日
委員 教育長職務代理者	末信 丈夫	平成30年7月1日～令和4年6月30日
委員	横山 和明	平成28年4月29日～令和2年4月28日
委員	神本 久美	平成31年4月29日～令和5年4月28日
委員	立花 有佐	平成29年4月29日～令和3年4月28日

2 教育委員会議の開催状況

月日	会議名	概要
4月19日	平成31年第5回教育委員会議	議案2件、報告4件、協議1件
5月17日	令和元年第6回教育委員会議	議案12件、報告0件、協議0件
6月18日	令和元年第7回教育委員会議	議案4件、報告1件、協議1件
7月19日	令和元年第8回教育委員会議	議案1件、報告2件、協議1件
8月20日	令和元年第9回教育委員会議	議案6件、報告0件、協議2件
9月25日	令和元年第10回教育委員会議	議案8件、報告1件、協議1件
10月21日	令和元年第11回教育委員会議	議案4件、報告1件、協議0件
11月18日	令和元年第12回教育委員会議	議案3件、報告1件、協議0件
12月23日	令和元年第13回教育委員会議	議案1件、報告1件、協議1件
1月24日	令和2年第1回教育委員会議	議案3件、報告1件、協議3件
2月14日	令和2年第2回教育委員会議	議案1件、報告1件、協議1件
3月6日	令和2年第3回教育委員会議	議案6件、報告0件、協議0件
3月26日	令和2年第4回教育委員会議	議案10件、報告1件、協議0件

3 教育委員会議の議決案件及び主な報告・協議事項

平成31年4月～令和元年12月

開催番号	議案等	議 題 名	備考	
第5回	第21号	庄原市教科用図書採択地区の採択事務に関する規約の一部改正について	可決	
	第22号	庄原市就学指導委員会委員の委嘱について	承認	
	報告	平成31年度教育委員会嘱託員・臨時職員について	—	
	報告	平成31年度各課・室事務分掌について	—	
	報告	平成31年度における重要課題及び留意事項について	—	
	報告	入学祝金制度の見直しについて	—	
	協議	西城温水プール水夢開（休）期間見直しについて	—	
第6回	第23号	庄原市入学祝金支給要綱の一部改正について	可決	
	第24号	令和2年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について	承認	
	第25号	庄原市奨学金貸付審査会委員の委嘱について	承認	
	第26号	庄原市教育事務評価検討委員の委嘱について	承認	
	第27号	庄原市小中学校評議員の委嘱について	承認	
	第28号	庄原市学校保健会委員の委嘱について	承認	
	第29号	庄原市学校関係者評価委員の委嘱について	承認	
	第30号	庄原市教科用図書採択地区選定委員会委員の委嘱について	承認	
	第31号	庄原市社会教育委員の委嘱について	承認	
	第32号	庄原市図書館協議会委員の委嘱について	承認	
	第33号	庄原市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	承認	
	第34号	庄原市芸術文化振興審議会委員の委嘱について	承認	
	第7回	第35号	令和元年度庄原市一般会計補正予算第2号(教育委員会所管分)について	承認
		第36号	庄原市社会教育委員の委嘱について	承認
第37号		庄原市博物館・資料館運営協議会委員の委嘱について	承認	
第38号		庄原市芸術文化振興審議会委員の委嘱について	承認	
協議		平成30年度教育行政施策の方針に基づく実績点検・評価について	—	
報告		令和元年度庄原市青少年友好訪問	—	
第8回	第39号	庄原市美術展覧会運営協議会委員の委嘱について	承認	
	協議	平成30年度教育行政施策の方針に基づく実績点検・評価について	—	
	報告	市議会6月定例会一般質問の概要(教育委員会関係分)について	—	
	報告	庄原市学校施設長寿命化計画について	—	
第9回	第40号	庄原市水泳プール設置及び管理条例の一部改正について	決定	
	第41号	平成30年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書について	承認	
	第42号	2020年度使用小学校教科書の採択に係る請願について	一部採択	
	第43号	令和2年度使用小学校用教科用図書の採択について	決定	
	第44号	令和2年度使用中学校用教科用図書の採択について	決定	
	第45号	令和2年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について	決定	
	協議	令和元年度県立学校訪問について	—	
	協議	令和元年度教育委員会委員行政視察について	—	
第10回	第46号	令和元年度庄原市一般会計補正予算第3号(教育委員会所管分)について	承認	
	第47号	令和2年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について	決定	
	第48号	庄原市社会教育委員の委嘱について	承認	
	第49号	庄原市芸術文化振興審議会委員の委嘱について	承認	
	第50号	庄原市博物館・資料館運営協議会委員の委嘱について	承認	
	第51号	庄原市図書館協議会委員の委嘱について	承認	
	第52号	庄原市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	承認	
	第53号	庄原市文化財保護審議会委員の委嘱について	承認	
	協議	幼児教育無償化への対応及び保護者への支援について	—	
	報告	市議会9月定例会一般質問の概要(教育委員会関係分)について	—	

第11回	第54号	庄原市私立幼稚園入園料補助金交付要綱の制定について	可決
	第55号	庄原市私立幼稚園預かり保育利用に係る補助金交付要綱について	可決
	第56号	庄原市指定文化財の指定について	承認
	第57号	令和2年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について	決定
	報告	広島県公立学校教職員人事異動方針について	—
第12回	第58号	令和元年度庄原市一般会計補正予算第3号(教育委員会関係分)について	承認
	第59号	庄原市生涯学習施設設置及び管理条例施行規則及び庄原市研修宿泊施設設置及び管理条例施行規則の一部改正について	可決
	第60号	令和2年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について	決定
	報告	会計年度任用職員制度の導入について	—
第13回	第61号	令和2年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について	決定
	報告	市議会12月定例会一般質問の概要(教育委員会関係分)について	—
	協議	「部活動の方針」の策定について	—

令和2年(1月～3月)

開催番号	議案等	議 題 名	備考
第1回	第1号	庄原市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について	同意
	第2号	庄原市奨学金貸付審査会委員の委嘱について	承認
	第3号	教育委員会所管施設にかかる指定管理者の指定について	同意
	協議	令和元年度教育行政施策の方針に基づく中間点検・評価について	—
	報告	令和2年度会計年度職員の雇用について	—
	協議	学校施設等の長寿命化計画の進捗状況について	—
	協議	庄原市学校運営協議会について	—
第2回	第5号	令和2年度庄原市一般会計当初予算(教育委員会所管分)について	同意
	報告	令和2年度当初予算案・主要事業の概要について	—
	協議	令和2年度教育行政施策の方針案について	—
第3回	第6号	庄原市学校運営協議会規則の制定について	可決
	第7号	庄原市公立学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部改正について	可決
	第8号	令和2年度教育行政施策の方針の策定について	承認
	第9号	令和元年度庄原市一般会計補正予算第5号(教育委員会所管分)について	同意
	第10号	令和2年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について	可決
	第11号	教職員の人事について	承認
第4回	第12号	庄原市教育委員会事務局組織規則の一部改正について	可決
	第13号	庄原市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の施行に関する教育委員会規則の一部改正について	可決
	第14号	庄原市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の廃止について	可決
	第15号	庄原市私立幼稚園第2子以降就園補助金交付要綱の廃止について	可決
	第16号	庄原市立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について	可決
	第17号	会計年度任用職員の任用、給付等に係る関係教育委員会規則の整備に関する規則について	可決
	第18号	会計年度任用職員の任用、給付等に係る関係教育委員会要綱の整備に関する要綱について	可決
	第19号	庄原市公立学校その他の教育機関の長に対する事務委任規程の一部改正について	可決
	第20号	庄原市学校運営協議会委員の委嘱について	承認
	第21号	庄原市学校医の委嘱について	承認
	報告	市議会3月定例会一般質問の概要(教育委員会関係分)について	—

4 教育委員会議以外の活動状況

【教育総務課】

開催日	行事名等	活動内容
5月30日	広島県市町教育委員会連合会定期総会 (於:広島市)	県教育委員会担当者等との意見交換等
6月5日	広島県女性教育委員グループ総会・第1回研修会 (於:広島市)	講演、実践発表等
7月29日	平成30年度教育事務点検評価に関する意見交換会	教育事務評価検討委員との意見交換
8月21日	令和元年度庄原市戦没者追悼式並びに平和記念式典	式典
10月15日～10月30日	市内県立学校視察(庄原格致高校、西城紫水高校、東城高校、庄原特別支援学校)	授業参観、学校施設見学、意見交換等
10月23日	広島県市町教育委員会連合会教育委員研修会 (於:広島市)	講演、実践発表等
11月5・6日	市町教育委員会研究協議会(第2ブロック)	講演、実践発表等
11月7・8日	教育委員先進地視察 (於:東京都府中市・杉並区)	教育行政に関する視察研修
1月29日	庄原市総合教育会議	市長との意見交換

【教育指導課】

開催日	行事名等	活動内容
4月8日	市内中学校入学式	教育委員会告辞
4月19日～5月21日	庄原市教育委員会事務局全小中学校訪問	授業参観、学校施設見学、意見交換等
5月18日～6月2日	市内小学校・中学校春季運動会	参観
6月9日	第15回中学生による英語スピーチ大会	参観
7月26日	第54回庄原市少年少女水泳記録会	参観
8月31日	第44回広島県民体育大会陸上競技庄原市選考会	参観
8月31日～9月15日	市内小学校・中学校秋季運動会	参観
6月12日～12月11日	市内小学校・中学校研究会	学校研究会視察
10月20日	庄原市教育フォーラム 小学校外国語科の公開授業、中学生による外国語科の 取組発表、講演等	講演等、参観
11月12日	庄原市中学校合唱コンクール	参観
3月10日	市内中学校卒業式	出席
3月24日	市内小学校卒業式	出席

【生涯学習課】

開催日	行事名等	活動内容
7月7日	第29回庄原市スポーツフェスティバル	来賓出席
7月16日	全国大会等出場者壮行式(夏季)	壮行式参観
7月28日	市役所ロビーコンサート100回記念演奏会	参観
8月24日	第20回ひろしまクロスカントリー大会	大会参与
9月14日	庄原市田園文化センター開館30周年記念 図書館まつり	講演等参観
9月30日	全国大会等出場者壮行式(秋季)	壮行式参観
10月19日	第14回庄原市民健康づくりグラウンド・ゴルフ大会	来賓出席
12月1日	第68回庄原市スター式駅伝大会	来賓出席
12月5日	人権作品表彰式及び講演会	来賓出席
1月4日	庄原市成人式	式典、講演参観
1月26日	倉田百三文学館文化講演会	講演参観
2月16日	第8回庄原市民俗芸能大会	参観
2月22日	庄原市田園文化センター文化講演会	講演参観

IV 教育事務評価検討委員の意見

1 庄原市教育事務評価検討委員

氏 名	所 属	委 嘱 区 分
塩本 千恵子	庄原市民生委員児童委員協議会	学校教育関係者
実安 裕美	青少年健全育成庄原市民会議	学校教育関係者
黒木 美穂	庄原市PTA連合会	学校教育関係者
堀江 直子	庄原市社会教育委員	生涯学習関係者
藤原 二三幸	庄原市芸術文化振興審議会	生涯学習関係者
岩本 光雄	庄原市スポーツ推進審議会	生涯学習関係者
河村 和也	公立大学法人 県立広島大学	学識経験を有する者

2 点検及び評価の結果に関する意見

(1) 学校教育

- 4 ページ ○主体的に学び考える教育の推進

「学習」について、学びというものは「習う」ものなのか、「修める」ものなのかを各方面で議論されてきている。庄原市でも、ぜひ、議論していただきたい。

- 10 ページ ○生徒指導の充実

スクールカウンセラーについて、今年度は全校配置と聞いて安心した。今年度は新型コロナウイルスの問題があり、子供達が学校へ行けるか親として心配していた。

また、これからの状況を見ると、夏休みが短くなるなど、子供にいろいろと精神的な負担がかかることが予想されるが、スクールカウンセラーが配置されているのでありがたい。

「課題・対応」に「暴力行為が発生した要因として、児童生徒が感情や行動のコントロールができていないことが挙げられる。引き続き、社会で許されないことは学校でも許されないといった毅然とした指導と特別支援教育の視点を踏まえた指導が必要である。」と記載されている。

最近では、支援を必要とする児童生徒が増加している状況と聞くので、教委・学校・関係機関がさらに連携し、個々に対する継続的な取り組みを強めて欲しい。

- 12 ページ ○芸術教育の充実

「課題・対応」に「本市では児童生徒が伝統や文化に触れる機会は多いが、外部に発信する力が弱い」とある。庄原市の子供たちは神楽や花田植えをしたり、新聞の子供俳句や鈴木三重吉賞に応募する学校があるなど、様々な場面で活躍しており外部にも発信をしているため、発信力が弱いとは捉えていない。

○ 13 ページ ○ 体力づくりの充実

田舎の子供は街の子と比べて体力はあってしかりと思うが、逆に体力がない実態もある。ボールが投げられない、持久力が弱い、脚力がないなど、特定の項目で、県レベルの会議などで言われている状況である。要因を考えた時に、遠距離通学のため、スクールバスで通学していて、歩かない、走らない、寄り道をしない、そういう日々の生活の中で体力が弱ってきているのではないか。得意なものしかやらない傾向があり、不得意なもの、興味を持たないものはやらない。良い悪いは別にしても体力がないと、すべてのことに対して、持久力がない、集中力がないなど弊害が出てくるのではないかと感じる。

○ 15 ページ ○ 情報化に対応した教育の充実

3月の新型コロナウイルス感染症対策に伴う、学校臨時休業中におけるタブレット等情報機器の活用について取り組みが十分ではなかったように感じた。

(2) 生涯学習

○ 31・32 ページ ○ 学習機会の提供

3月に新型コロナウイルス感染症対策として、学校が臨時休業となり、急遽放課後子供教室を開設した。受け入れはできたものの、急な開設であったため、関係機関との調整が不十分であったように思う。今後はスムーズな開設に向けて連携をしっかりと行い、取り組みをお願いしたい。

3月に新型コロナウイルス感染症対策として、学校が臨時休業となり、急遽放課後子供教室を開設した。このような緊急事態の時は、教育委員会としても学校職員の協力等、柔軟な対応を取っていただきたい。

放課後子供教室と放課後児童クラブとでは所管が違うが、今回の新型コロナウイルス感染症対策では連携が取れていたのか。

○ 34 ページ ○ 学習活動の支援

庄原市子ども会連合会の組織と活動状況はどういう実態なのか。

○ 35 ページ ○ 読書環境の充実

県立広島大学の所蔵図書を庄原市に贈呈させていただいた。活用いただき感謝している。今後も連携して図書の有効活用について協議させていただきたい。

○ 39 ページ ○ 芸術文化活動の推進

有効性が低いという表現は、効果がなかったと捉えられる恐れがある。行政の関わりに関する評価の方法を変更されるか、意図を記した注釈をつけることをお願いしたい。

(3) 家庭・地域の教育力

○ 57 ページ ○ 地域の教育力の向上

庄原市で取り組もうとしているコミュニティ・スクールの姿は、地域住民と学校が連携して運営していくことであり、現段階では試行的であると理解した。